



保育園を起点とした食支援活動

事業者アンケート調査報告書

地域の親子に寄り添う 「保育園こども食堂」

2025.6

こどもたちのために、日本を変える

Florence

調査実施概要

＜保育園こども食堂※事業者の取組み・活動効果に関する調査・分析＞

※保育園こども食堂：保育園で実施するこども食堂の他、フードパントリーやこども宅食も含む、保育園起点の食支援活動

調査方法： こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の中間支援団体であるフローレンスがアンケートを作成。

食支援活動を実施した助成団体に事業期間（24年7月～25年1月末）終了後に回答を依頼。

実施概要： 保育園こども食堂等の事業者の活動状況と有効性の調査

「保育園こども食堂等を起点とした食支援事業」を行う事業者を対象にアンケートを実施し、助成を通じた活動の現状や利用者に対して行った対応・効果などを詳細に調査しました。

要支援家庭への相談支援や行政連携などの現状調査、及びその課題把握

保育園こども食堂などの要支援家庭に対するサポートや行政連携などの現状を調査し、課題感を確認し、具体的な改善方法を探ります。

「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」とは？

参考：R7年度 ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業

こども家庭庁
こども家庭庁

ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業【令和3年度創設】

支援局 家庭福祉課

令和6年度補正予算 19.2億円
※母子家庭等対策総合支援事業費補助金

事業の目的

- 困窮するひとり親家庭を始めとする要支援世帯のこども等を対象とした、こども食堂、こども宅食、フードパントリー等を実施する事業者を対象として広域的に運営支援、物資支援等を行う民間団体（中間支援法人）の取組を支援し、こどもの貧困や孤独・孤立への支援を行う。
- こども食堂が全国各地で大きく増加しているが、地域ごとに差もあるため、支援を行き渡らせることも重要な課題となってきた。（こども食堂箇所数2018年時点：2,286か所 → 2023年時点：9,132か所、都道府県ごとの小学校区にこども食堂がある割合：1割～5割（※認定NPO法人「むすびえ」2023年調査））
- ひとり親家庭等のこども等に必要な食事等支援が届けられるよう、全国を複数のブロックに区分して、ブロック毎に中間支援法人が各地のこども食堂等に伴走型の支援を行う。

事業の概要

【1】国⇒中間支援法人

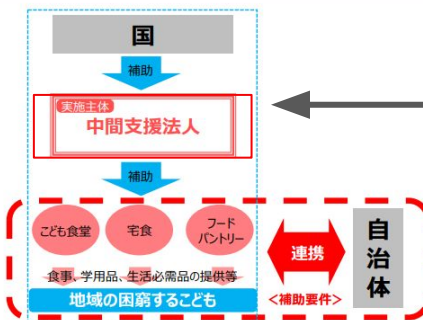
- こども食堂等の事業者を対象として広域的に支援を行う中間支援団体を公募し、選考委員会を開催した上で対象事業者を決定。
- ※ 各地のこども食堂等に伴走型の支援が実施できるよう、全国を複数のブロックに区分して、ブロック毎に中間支援法人を決定する。

【2】中間支援法人⇒こども食堂等

- こども食堂等から申請を受け付け、選考委員会を開催し助成対象事業者を決定。自治体との連携を補助要件とし、事業実施に必要な費用を助成（上限350万円）。
- 助成対象事業者の活動状況について確認を行い、必要に応じて、活動内容等に対してアドバイスを行う。
- 事業の実施結果について報告を求め、適正な執行が行われたかの確認を行う。

【3】こども食堂等⇒ひとり親家庭等のこども

- ひとり親家庭等のこどもに食事の提供等を行う。



実施主体等

【実施主体】 特定非営利活動法人、一般社団法人等の非営利団体 【補助基準額】 1法人当たり：240,000千円

【補助率】 定額（国：10/10相当）

30

自治体を経由せず、国から直接、中間支援法人を経由して補助する仕組み

経験やノウハウのある
非営利団体である
フローレンスが
「中間支援法人」として

1. 必要な費用の助成
 2. ノウハウ提供
- を行いました。

※R7年度も同様の事業が実施されます。現在、中間支援団体として申請をしています。

助成対象とした事業／活動類型

重要な観点として「**保育園での食支援から地域の子育て家庭とつながる**」を実現するために、

どのような手法をとっているかによって4つの活動に分類し、助成しました。

A

**保育園こども食堂
(イートイン・テイクアウト)**

保育園で調理した食事やお弁当を、保育園で提供する。食事をしながら、ご家庭の状況を伺い、困難を抱えるご家庭の相談に応じたり、適切な支援につなげる。

B

保育園でのフードパントリー

保育園に訪問してくれた要支援家庭等に食材や生活必需品をお渡しする。その際、ご家庭の状況をお伺いしながら相談に応じたり、適切な支援につなげる。

C

**保育園を起点とした宅食
(訪問手渡し型・配送型)**

保育園こども食堂等で繋がった要支援家庭等へ食材や生活必需品を届ける。スタッフが訪問して手渡すか、郵送で届ける。ご家庭の状況をお伺いしながら相談に応じたり、適切な支援につなげる。

D

上記活動の組み合わせ

上記活動を組み合わせることにより、ご家庭との接点を増やし、状況に合わせて柔軟に支援を提供する。

アンケート調査概要

項 目	内 容												
調査名称	【事業者用アンケート】保育園こども食堂 助成事業（24年度版）												
調査目的	・ 保育園こども食堂の事業の有効性（要支援家庭とのつながりや地域連携について） ・ 要支援家庭を支援するうえでの課題の可視化 ・ 事業者の行政連携など状況及び、その課題・意欲の確認												
調査方法	オンラインでのアンケート回答												
調査期間	2025年3月25日～4月9日												
調査対象	保育園こども食堂などの食支援活動実施者（中間支援法人：フローレンス経由）												
調査回答者数	101件												
調査回答者数 内訳	<div>回答者：保育園こども食堂の助成金利用者</div> <table><tr><th>項目</th><th>n</th><th>比率</th></tr><tr><td>保育事業者</td><td>89</td><td>88.1%</td></tr><tr><td>保育と連携した食支援事業者</td><td>12</td><td>11.9%</td></tr><tr><td>合計</td><td>101</td><td>100.0%</td></tr></table>	項目	n	比率	保育事業者	89	88.1%	保育と連携した食支援事業者	12	11.9%	合計	101	100.0%
項目	n	比率											
保育事業者	89	88.1%											
保育と連携した食支援事業者	12	11.9%											
合計	101	100.0%											

このアンケート調査のまとめ

<事業の実施率と頻度・規模について>

保育園 こども 食堂

- ❑ **実施率**：実施率約80%（81/101団体）
- ❑ **開催頻度**：月1回が最多
- ❑ **利用人数（世帯数）**：平均20～59名（世帯数は10～30世帯程度）
- ❑ **利用家庭の特徴**：6割超が未就学児世帯

フード パントリー

- ❑ **実施率**：実施率90%超（92/101団体）
- ❑ **開催頻度**：隔月～月1回定期開催が8割以上
- ❑ **利用世帯数**：平均30～60世帯
- ❑ **利用家庭の特徴**：半数超が未就学児世帯

宅食

- ❑ **実施率**：実施率約30%（約30/101団体）
- ❑ **開催頻度**：月1回が最多
- ❑ **実施方法**：訪問型22%程度、配送型10%程度

このアンケート調査のまとめ

<食支援利用者の相談対応について>

○相談対応

- 平均相談件数 <助成金期間中（約7ヶ月間）>： **約16件**
- 相談形式と相談時間：
 - 立ち話：10分程度（平均時間）／30分程度（最大時間）
 - 個別相談：30分程度（平均時間）／60分程度（最大時間）
- 主な相談内容：
 - こどもの発達・就園・偏食のほか、保護者の育児疲労に関する相談
 - ※経済困窮・DVなど深刻なケースも含まれる

このアンケート調査のまとめ

＜要支援家庭の支援の実態＞

- 行った相談・サポート活動：「育児相談」が最多（食支援活動時間内外問わず）
- 支援内容：物資提供、住居・就労・保育支援、心理・家庭問題対応など多岐に渡る
- 障害のある家庭の利用割合：平均7.6%

＜連携・紹介実績＞

- 専門機関・地域団体へのつなぎ：約40%の団体が実施
- 専門機関や地域団体への繋いだ世帯数平均（※繋いだ団体に限る）：4.3世帯（最大18世帯）
- 主な連携先：児童家庭支援センター、児童相談所、社会福祉協議会など

このアンケート調査のまとめ

<この事業を通じて得られた効果>

- 得られた効果1：利用者からの**相談が増加**（約80%の団体が実感）
- 得られた効果2：地域の親子への**子育て支強機能が強化**されたと感じる団体が多い
- 得られた効果3：約60%が**新たな要支援家庭とつながった**と回答
- 得られた効果4：約40%が**利用者を専門機関や地域団体に繋いだ**と回答

<課題と示唆>

- 団体の課題感：人手・資金不足、個人情報共有のハードル
- 行政・専門機関との連携の意欲：90%以上の団体がさらなる**連携強化**を求める
 - **個人情報の共有やコミュニケーションについて課題**と感じる団体が多い

このアンケート調査から得られる考察

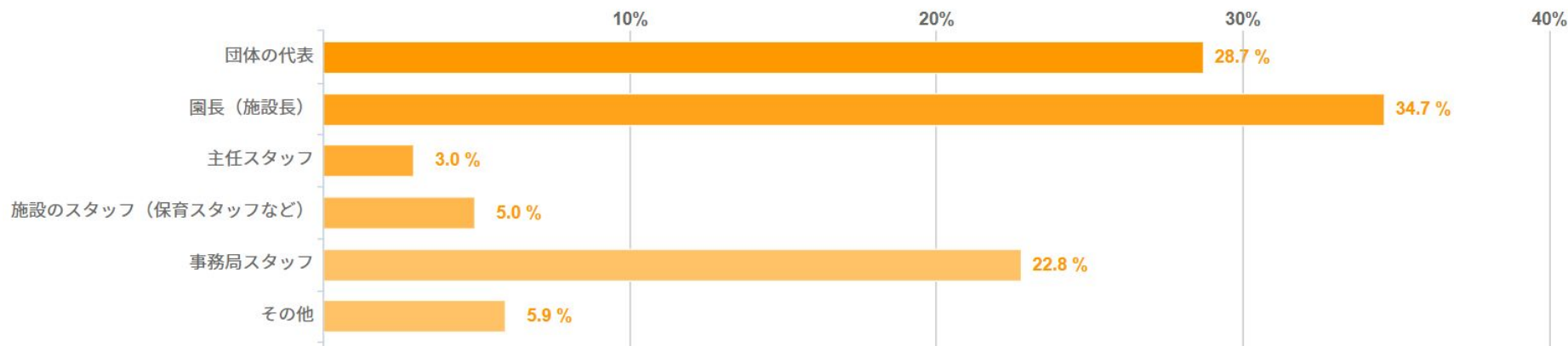
- ❑ 保育園こども食堂、フードパントリー、宅食事業はいずれも月1回の開催が最も多く、1回あたり約20～60世帯が利用している。これらの開催規模が事業者にとって持続的な活動範囲であると考えられる。
- ❑ 利用家庭のうち6割以上が未就学児を抱える世帯であり、小学生以上の利用が多い一般的なこども食堂と比較して「保育園」ならではの特徴と言える。食支援活動は地域の子育て家庭と定期的に顔を合わせ、交流を深め、必要に応じて相談できる場の一つとなっていると考えられる。
- ❑ 助成金期間中（約7ヶ月間）には、団体あたり平均16件の相談対応が実施された（相談を行っている団体に限る）。相談の形式は、立ち話による短時間（平均10分、最大30分）と個別相談による中長時間（平均30分、最大60分）で行われ、その内容はこどもの発達や就園、偏食への対応から、経済的困窮やDVなどの深刻なケースまで多岐にわたる。
- ❑ すでに事業者側は利用者に対して行政の支援情報などを共有しているといった一定の活動を行っている。しかし、保育園など事業者だけでは対応が難しいケースも一定数あると考えられ、専門機関や行政との連携は必須である。
- ❑ 関係機関との連携時にネックとなるのが、個人情報の共有やコミュニケーションの難しさである。事業者から専門機関・行政への連携の呼びかけは重要である。また専門機関・行政にとってはすでに未就学児の参加が多い食支援事業の利用者から課題を探ることは困難家庭とつながり、早期で効率的なアプローチをするきっかけとなる可能性がある」と認識が広まると良い。今後は、フローレンスとしても食支援事業者と専門機関・行政と団体の連携を深めるための活動に注力していく必要がある。

アンケート結果

実施団体の基本情報

あなたの役職を教えてください。

回答者（食支援事業の責任者）は、園長など施設長・団体の代表が中心



N: 101

活動場所の立地的な特性を教えてください。

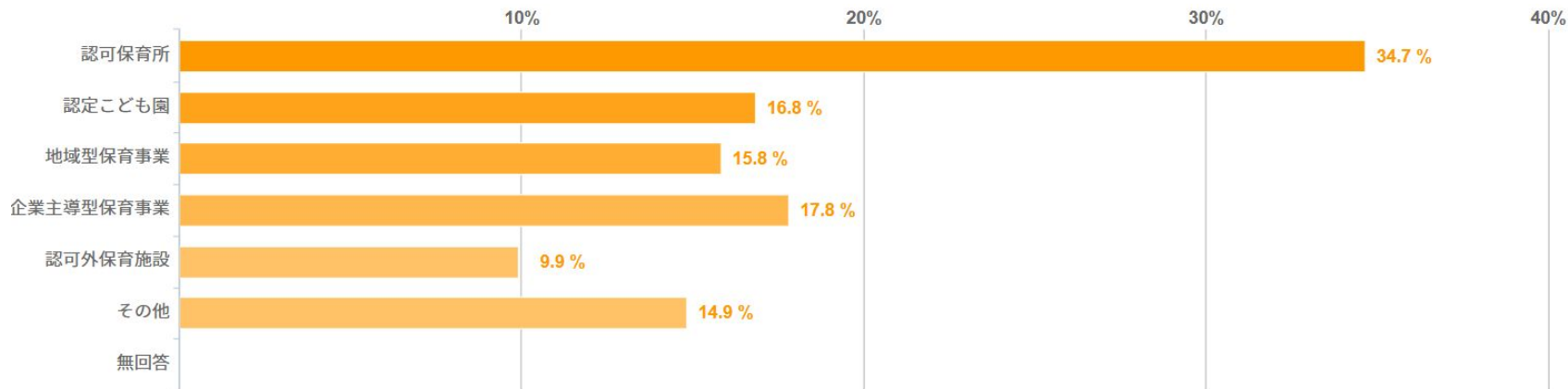
活動の実施箇所は住宅地が最多、次いで都市部、郊外の順に多い



N: 101

団体の施設類型を教えてください。

活動団体の施設類型は、認可保育所が最多



※その他：児童発達支援事業、幼稚園などの他、保育園と連携した地域の食支援団体や社協など

N: 101

団体の施設類型を教えてください

「その他」の活動施設



保育施設と連携して運営

- 公立保育園と連携
- 地域の認可保育園の軒先を活用
※フードパントリー実施
- 公設公営保育所 など

発達・障害児支援

- 児童発達支援施設
- 放課後等デイサービス施設
- 発達支援事業所 など

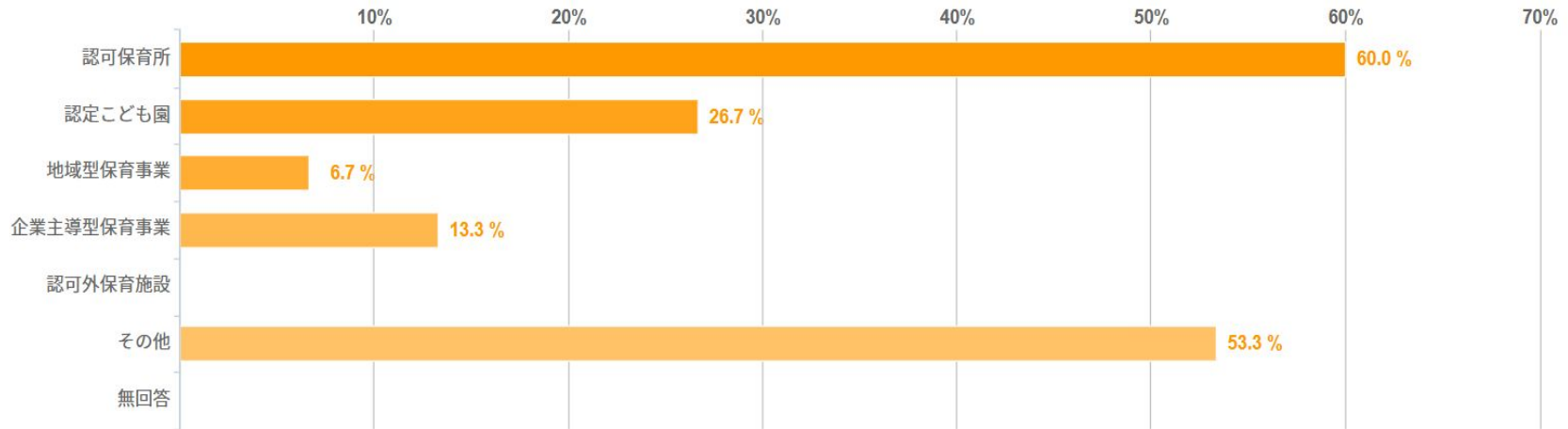
居場所・子育て支援施設

※保育所以外

- 供食支援を伴った居場所施設
- 民間の子育て支援施設
- 室内公園 など

連携した園の施設類型を教えてください

(保育園等と連携して活動を実施した場合)
連携した施設は認可保育園、認定こども園が多い

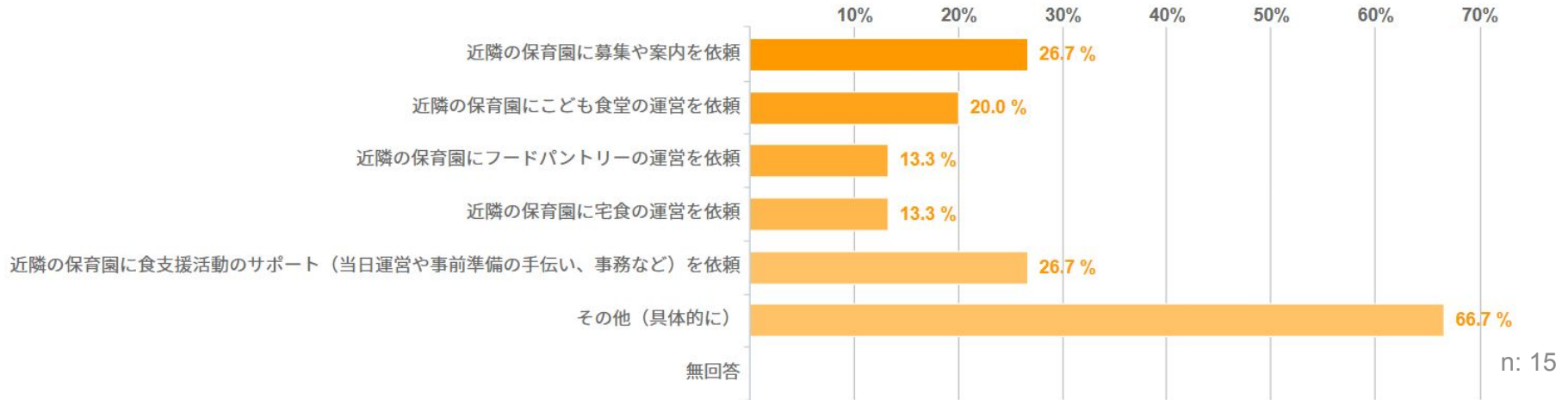


n: 15

その他: 発達支援事業所/僻地保育所/子育て支援センター/公設民営の保育所/子育て支援センター など

保育園とどのような連携方法をとりましたか？

地域の食支援団体×保育園の連携方法は**周知**から**運営サポート**まで多岐にわたる



その他:

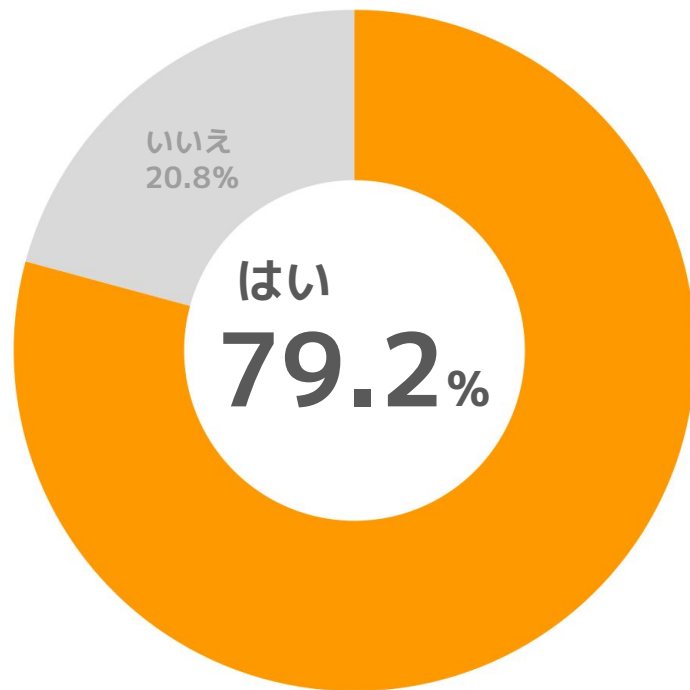
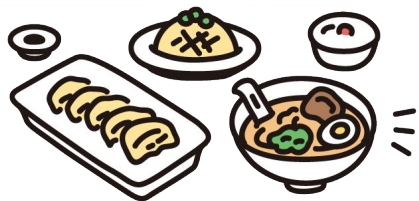
- ・ 保育園施設内での食支援活動実施
- ・ 子育て相談を連携して実施した
- ・ 保育園を通して情報収集や支援の依頼をした
- ・ 隣接する幼稚園、子育て支援センターと連携して運営
- ・ 要支援家庭の情報共有 など

保育園こども食堂の活動

保育園こども食堂を実施しましたか？（イートイン/テイクアウト）

保育園こども食堂

保育園こども食堂を約 **8 割** が実施



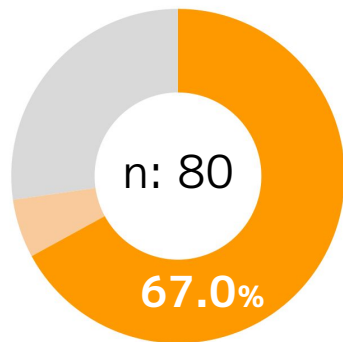
N: 101

保育園こども食堂の実施について

保育園こども食堂

実施場所

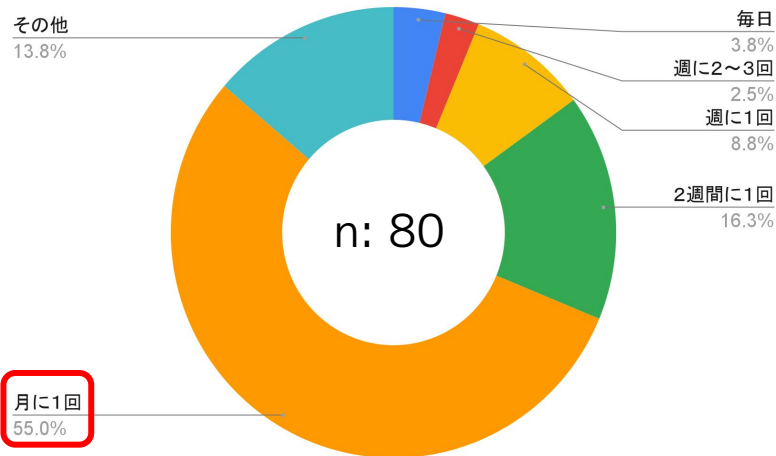
「自団体が運営する保育園」が約 **7 割**



● 自団体が運営する保育園等 ● 他の事業者が運営する近隣の保育園等 ● その他(具体的に)

実施頻度

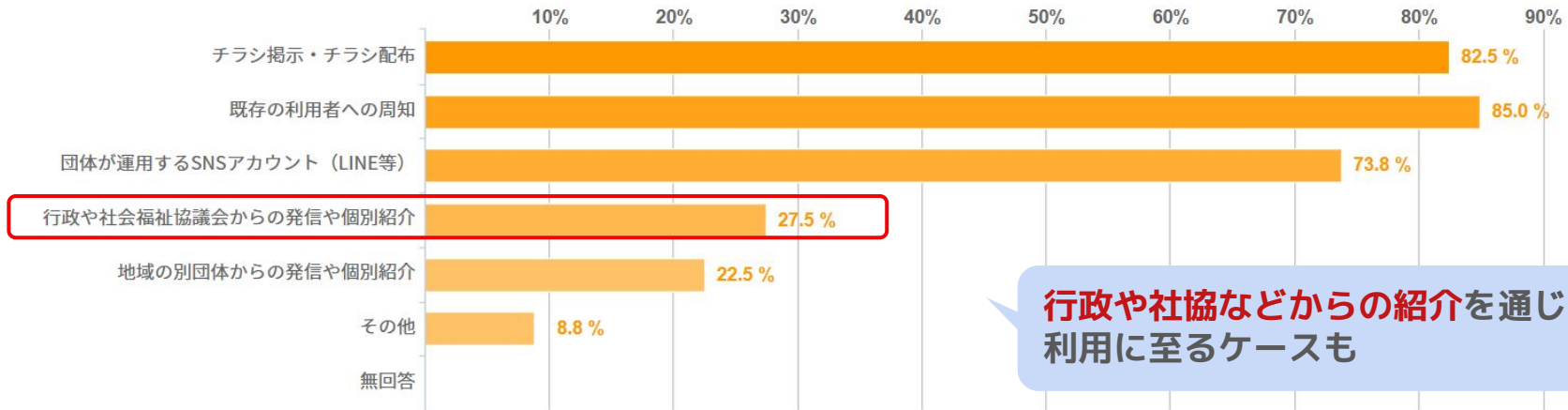
約半数が月 **1 回**の実施



どのように案内や募集をしましたか？

保育園こども食堂

利用者の周知・募集方法 ～チラシの掲示配布やSNSでの告知が中心～

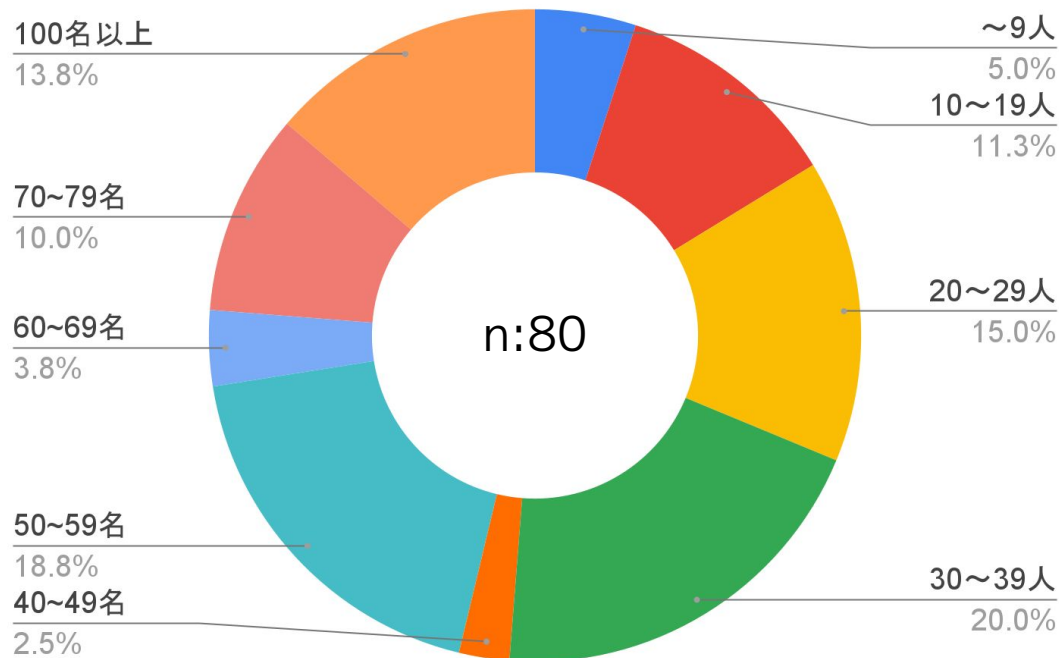


n: 80

イートイン・テイクアウト合わせて 1回の平均支援者数（提供食数）はどのくらいですか。

保育園こども食堂

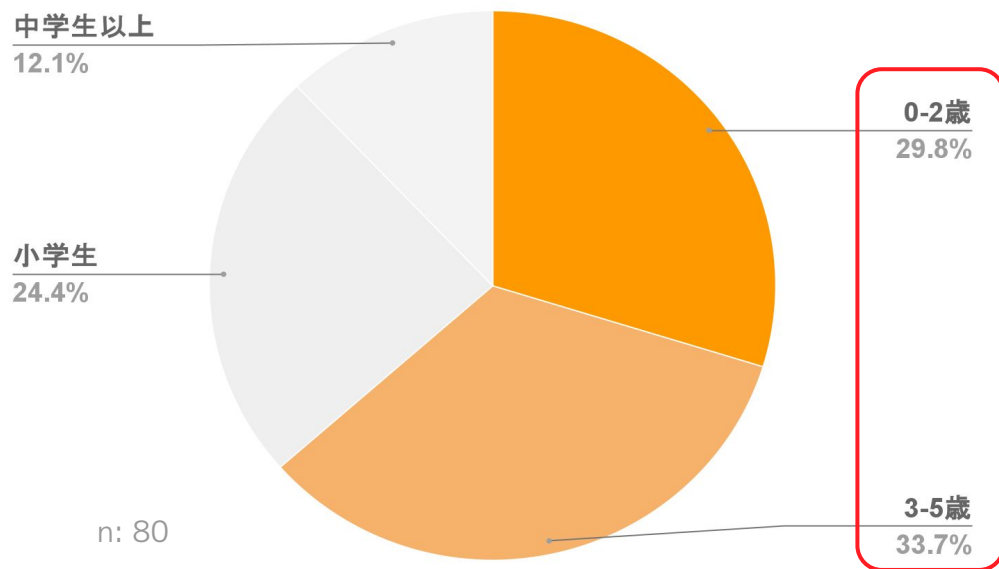
保育園こども食堂 1回の支援者数は団体の規模によりさまざま



利用者のこども全体を100%とした時に、各年齢のこどもがどのくらいいましたか？

保育園こども食堂

保育園こども食堂の利用者（こども）は**未就学児が6割以上**

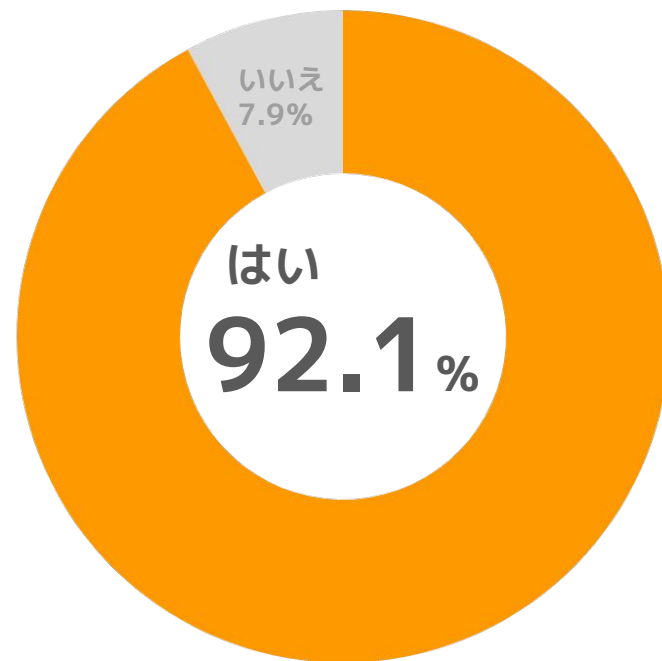


保育園フードパントリーの活動

フードパントリーを実施しましたか？

フードパントリー
@保育園

9割以上の事業者が
フードパントリーを実施



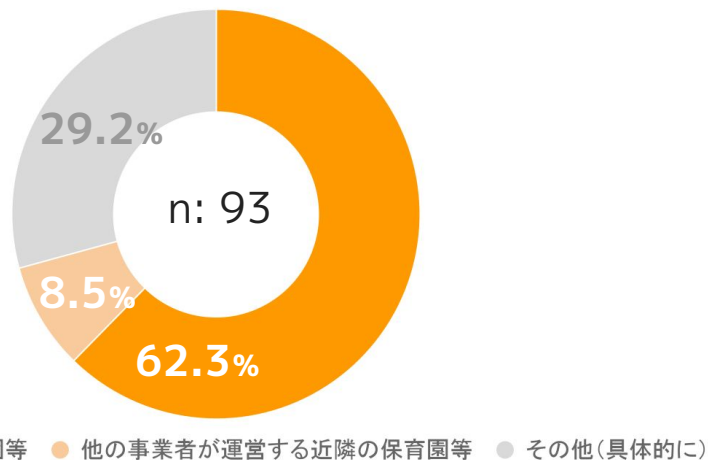
N:101

保育園等でのフードパントリーの実施について

フードパントリー
@保育園

実施場所

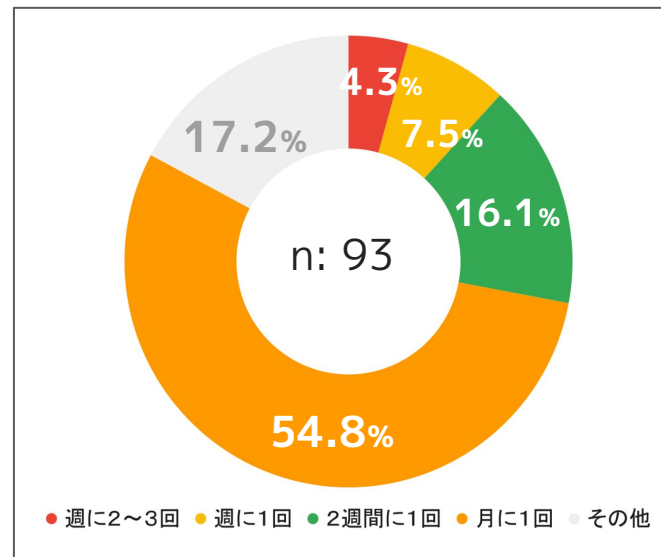
「自団体が運営する保育園等」が最多



その他：福祉施設、病院など医療関連施設、商店街・図書館など地域の交流スペース など

開催頻度

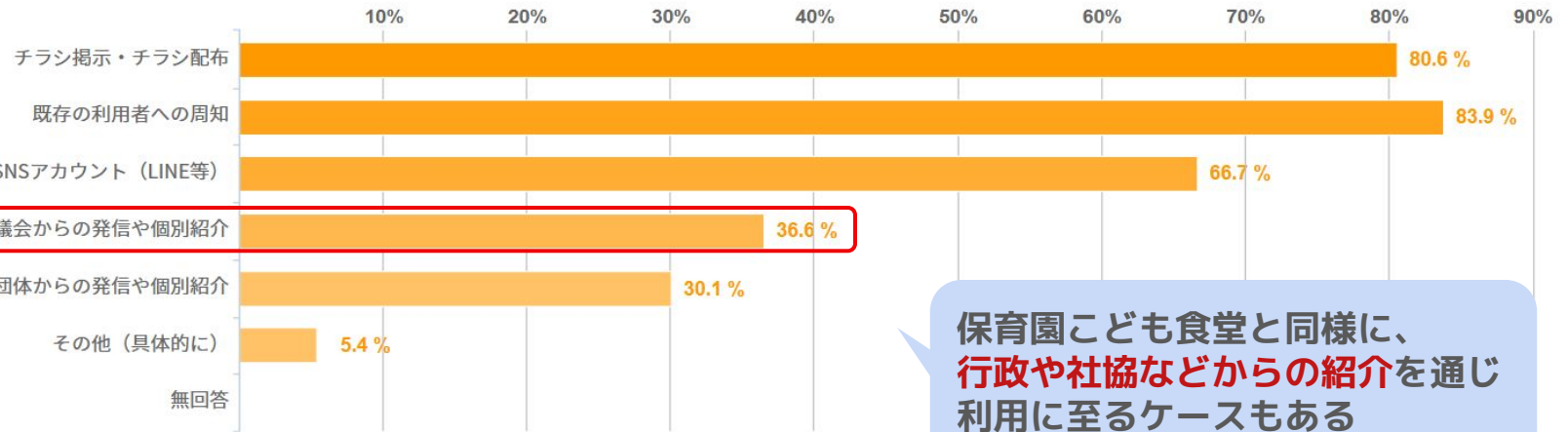
月に1回以上の定期開催が **8割以上**



どのように案内や募集をしましたか？

フードパントリー
@保育園

利用者の周知・募集方法 ～チラシの掲示配布や既存利用者への周知を行う団体が多数～



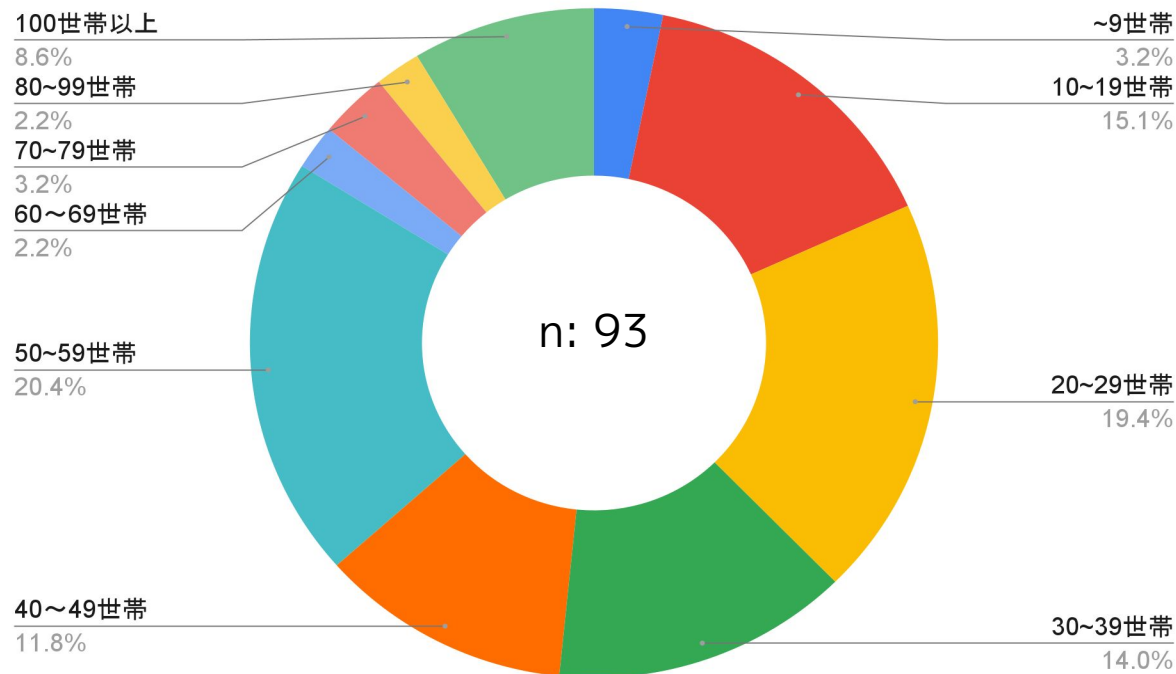
保育園こども食堂と同様に、
行政や社協などからの紹介を通じ
利用に至るケースもある

n: 93

フードパントリー 1 回の平均支援世帯数はいくらですか。

フードパントリー
@ 保育園

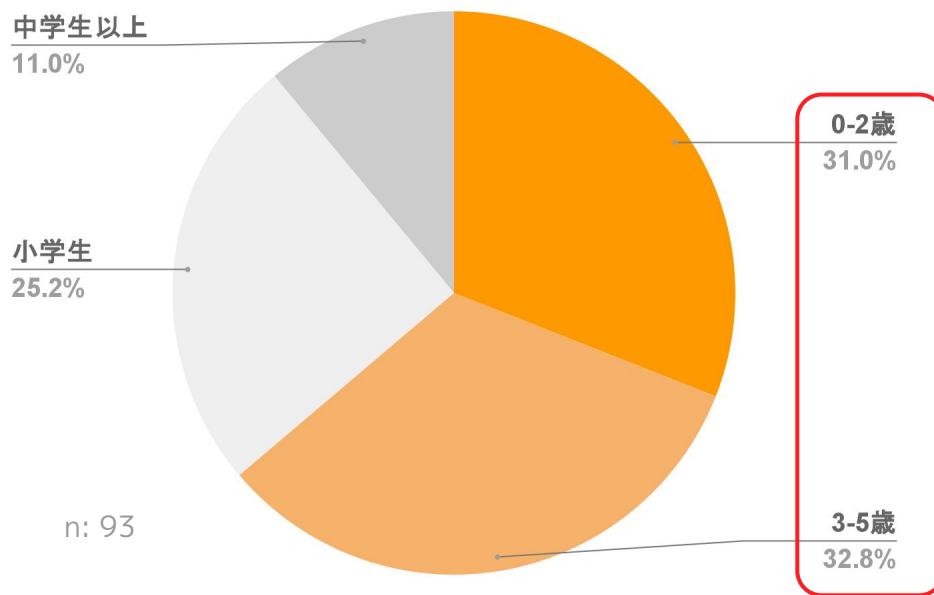
フードパントリー 1 回の支援世帯数は団体の規模によりさまざま



利用者のこども全体を100%とした時に、各年齢のこどもがどのくらいいましたか？

フードパントリー
@保育園

保育所等で行うフードパントリーの利用世帯は**未就学児のいる世帯が6割以上**



保育園を起点にした宅食の活動

宅食を実施しましたか？

保育園宅食

全体の**約 3 割**が宅食を実施
※内訳は、**宅配型**が約10%、**訪問型**は約21%



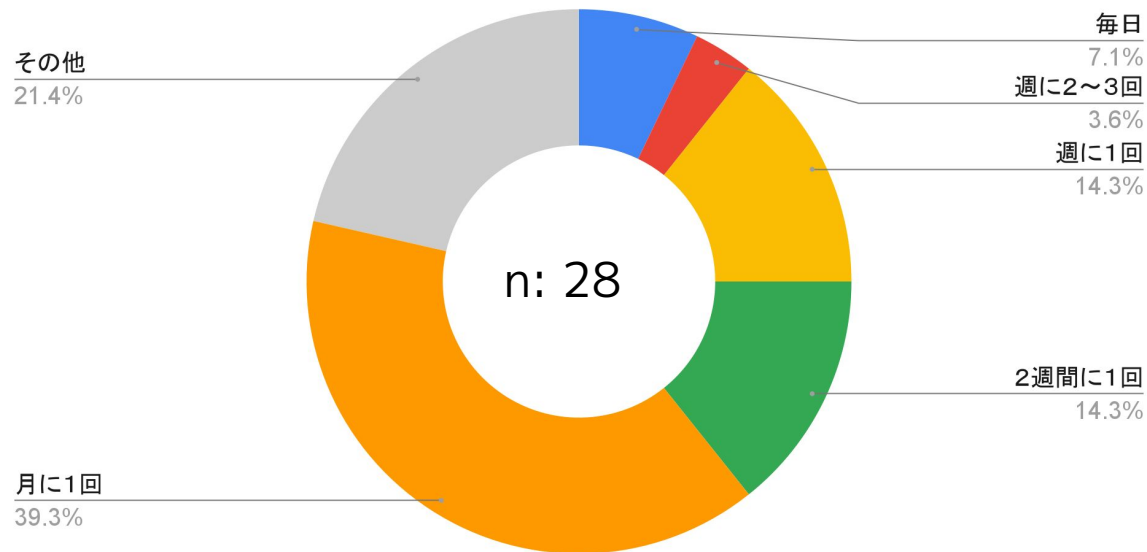
N:101

● 宅配型(郵送で届ける)を実施 ● 訪問型(直接家庭に届ける)を実施 ● いいえ

活動の頻度はどのくらいですか？

保育園宅食

開催頻度 月に1回の定期開催が最多

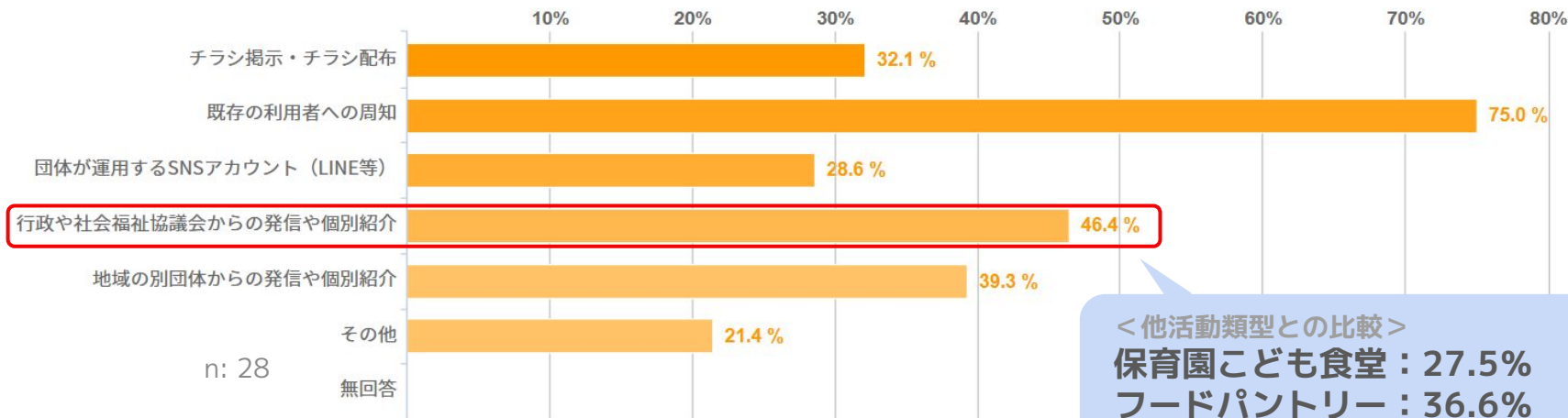


どのように案内や募集をしましたか？

保育園宅食

利用者の周知・募集方法

既存利用者への周知が最多 / 次いで**行政や社協からの紹介が多い点が特徴的**



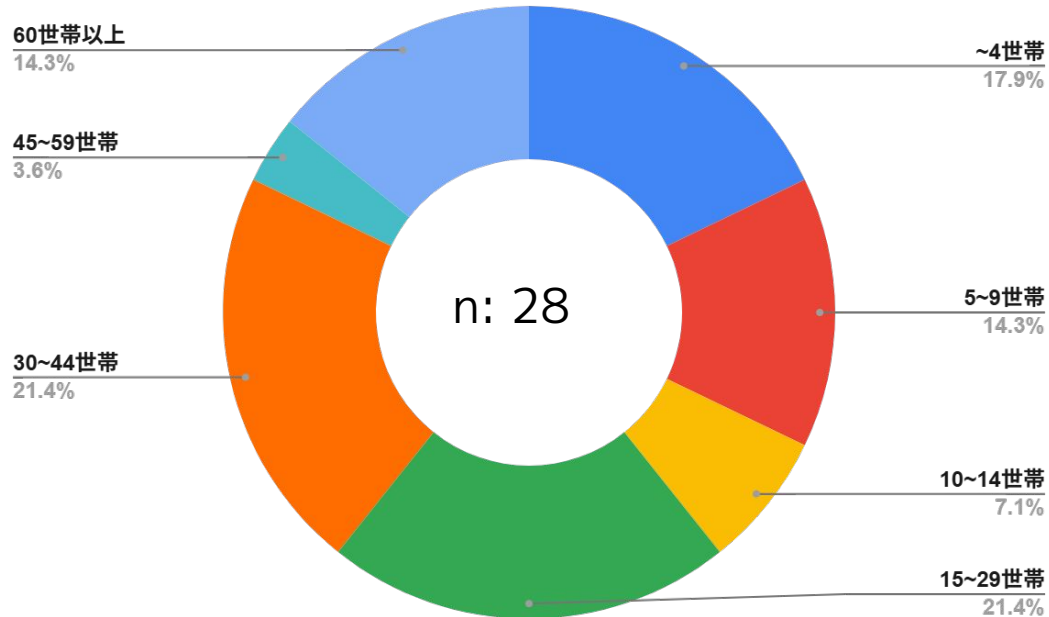
その他：

こども食堂の既存利用者を通じて宅食の希望者を呼びかけた、保育所・幼稚園・子育て支援センターの行事連絡と合わせて利用者募集をした地区回覧板で案内を掲載した など

月の平均支援世帯数はどのくらいですか？

保育園宅食

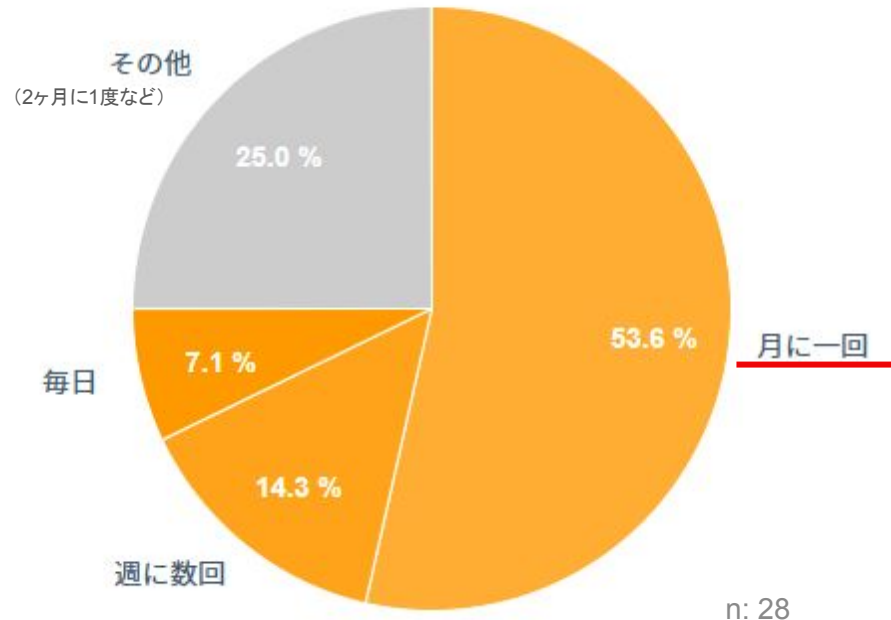
宅食を行う事業者の月の支援世帯数は団体の規模や地域特性によりさまざま



1世帯に月平均何回、配送もしくは訪問をしましたか？

保育園宅食

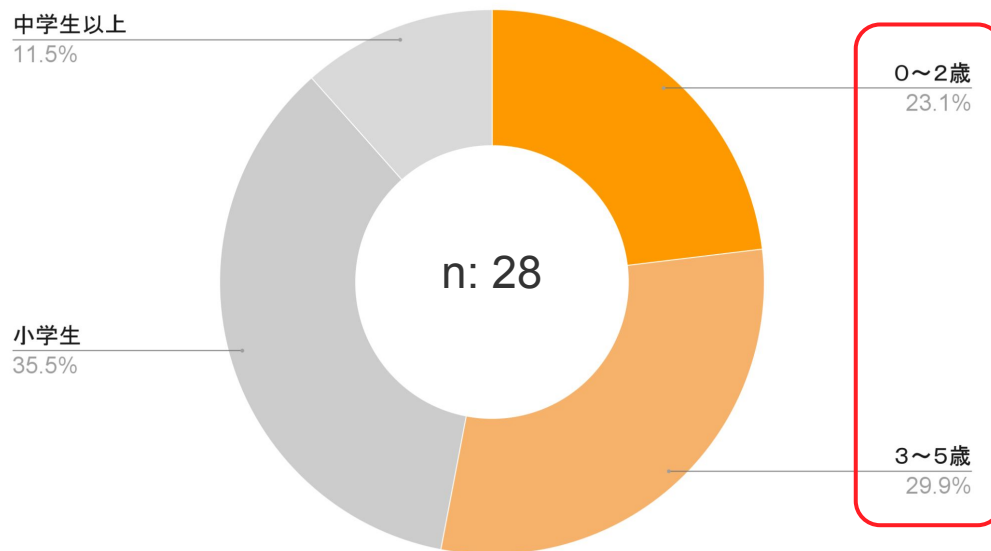
「月に1回」が最多
宅食でご家庭と定点的なつながりを持っている事業者が多数



利用者のこども全体を100%とした時に、各年齢のこどもがどのくらいいましたか？

保育園宅食

宅食の利用世帯は**未就学児のいる世帯が 5 割以上**

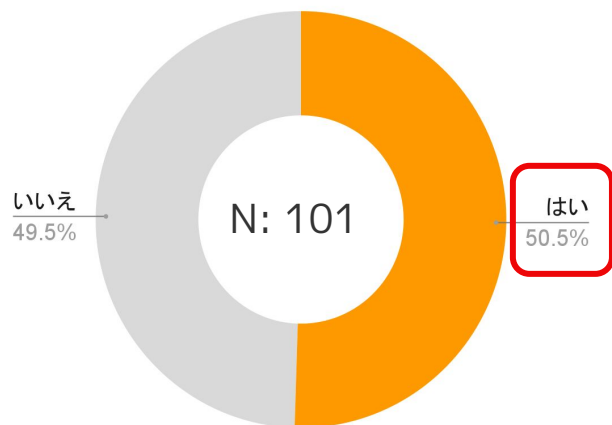


利用家庭の属性

全事業の利用世帯の中で障害のある方のいる世帯は何%くらいありましたか？

5割の団体が「障害のある方のいる世帯の利用がある」と回答
上記団体の利用世帯のうち、障害のある方のいる世帯が占める割合は**平均7.6%**程度

障害のある方のいる世帯の利用はありましたか？



(「はい」と回答した団体への質問)
利用世帯に占める「障害のある方のいる世帯」
の割合はどれくらいですか？

7.6%

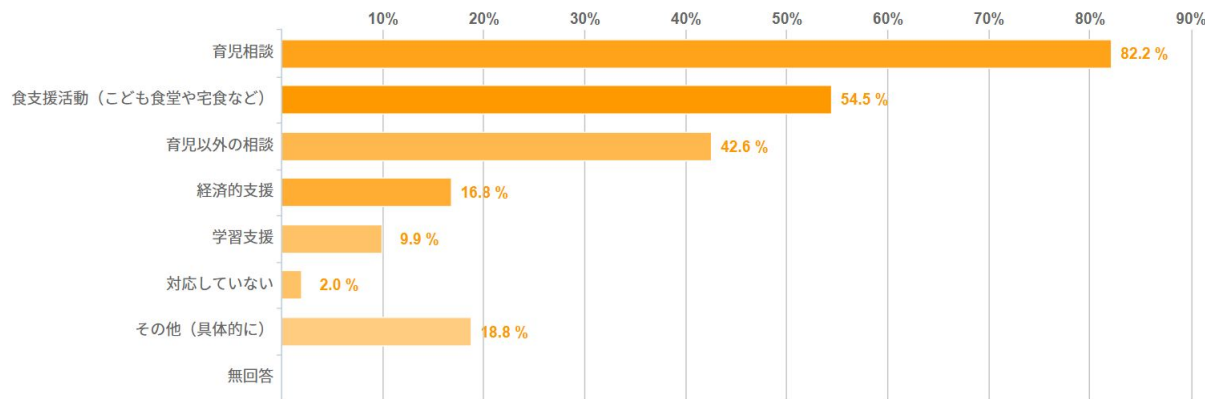
n:51
(「はい」と回答した団体)

要支援家庭への対応について

(食支援活動に限らず普段の園運営等の中で取り組んでいること)

当助成金の期間内外問わず続けている活動において、 要支援家庭への対応内容について教えてください。

育児相談が最多／食支援活動など多岐にわたる支援を実施する事業者も



N: 101

その他の回答サマリー（自由記述）

【子育て支援】

離乳食の相談支援、妊産婦への事業、医療的ケア児の家庭支援（医療的ケア児家庭のネットワーク・つながりづくり）、外国籍家庭の支援、一時預かり、産前産後保育、ネグレクトや生活環境に不安があるご家庭の支援 など

【居場所・体験・文化活動】

つながり文庫・外遊び等の体験機会の提供、無料ミニコンサートなどのイベント開催 など

【生活支援（物資の提供）】

お米やゴミ袋などの生活必需品の配布

【心理・家庭問題への対応】

不倫、夫婦関係の悪化など家庭内問題への相談支援

【住居支援・就労支援】

住居支援（引っ越し支援、家探しなど）、就労支援（中卒児童の職探し、同行支援を含む）

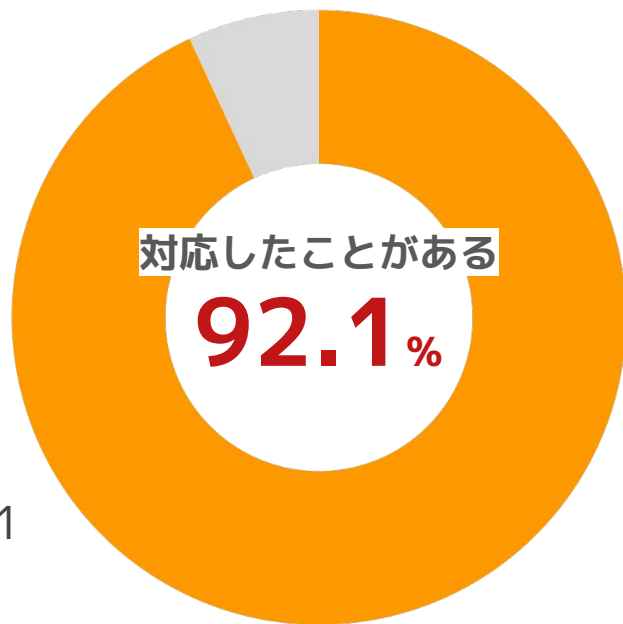
【他機関と連携する体制構築】

自治体や支援機関連携（こども家庭センター、保健師など）
子育て支援部門との連携し、ケアカンファレンスの実施・依頼など

※この質問での要支援家庭とは：経済的な困難や育児の悩み、孤立感などから、行政・専門機関のサポートが必要そうな家庭を指します。必ずしも行政が把握している必要はありません。

当助成金の期間内外問わず続けている活動において、
育児疲労や孤育てのつらさに関する相談への対応頻度について教えてください。

育児疲労・孤育てに関する相談対応を行う団体は**9割以上**



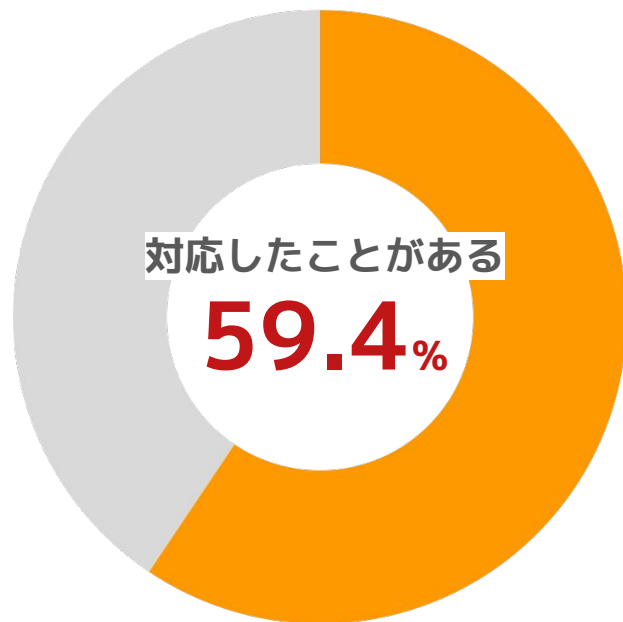
N: 101

対応頻度

- ・ 毎日 (15.8%)
- ・ 週に2~3回 (5.0%)
- ・ 週に1回 (11.9%)
- ・ 2週間に1回 (5.9%)
- ・ **月に1回 (32.7%)**
- ・ その他 (22.8%)

当助成金の期間内外問わず続けている活動において、
経済困窮に関する相談への対応頻度について教えてください。

経済的困窮に関する相談対応を行う団体は約 6 割



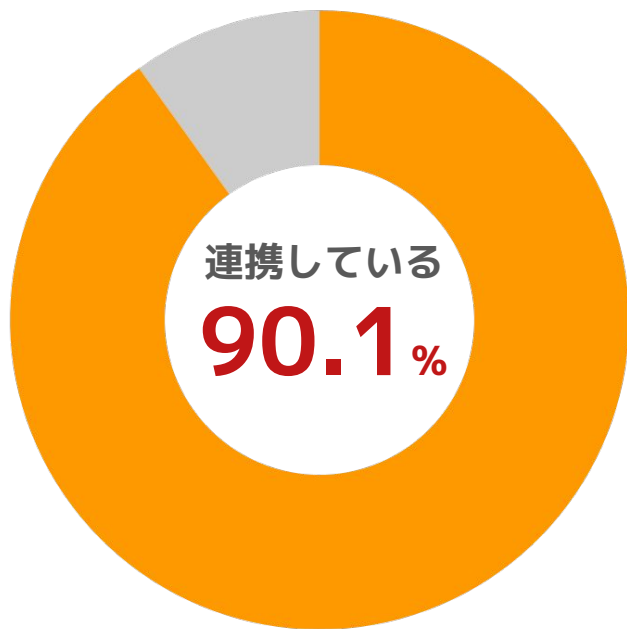
対応頻度

- ・ 毎日 (5.0%)
- ・ 週に2~3回 (1.0%)
- ・ 週に1回 (5.9%)
- ・ 2週間に1回 (5.9%)
- ・ 月に1回 (22.8%)
- ・ その他 (20.8%)

N:101

当助成金の期間内外問わず続けている活動において、普段から連携している
児童相談所・社会福祉協議会・福祉団体等との連携頻度について教えてください。

児童相談所・社会福祉協議会・福祉団体等と連携している団体は**9割**



対応頻度

- ・ 毎週 (6.9%)
- ・ 月に2~3回 (14.9%)
- ・ 月に1回 (19.8%)
- ・ **年に数回 (38.6%)**
- ・ その他 (20.8%)

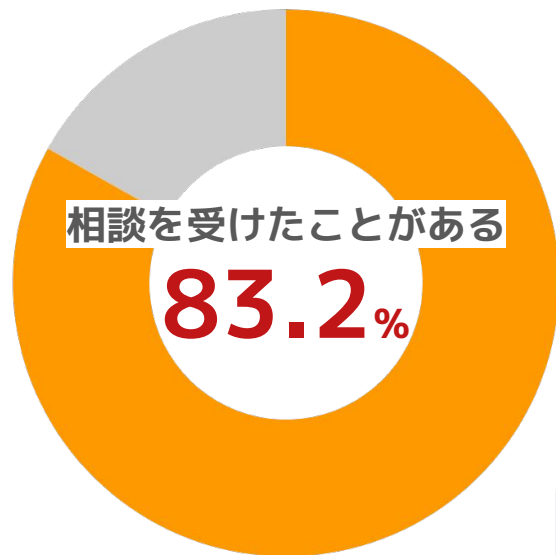
N: 101

食支援活動における相談対応

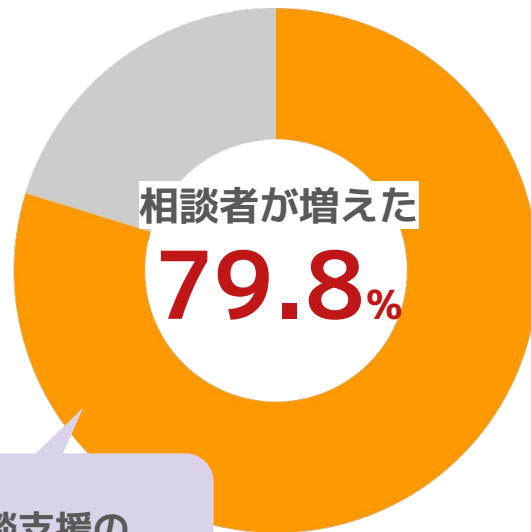
当食支援活動中の利用者からの相談対応について

※相談とは：立ち話で少し悩みごとを話してくれた等のケースも含める

食支援活動中に相談対応を
行った団体は 8 割以上



約 8 割の団体が
食支援により「相談者が増加した」と回答



✓ポイント
食支援が新たな相談支援の
入口となっている可能性

(当食支援活動中に) 相談につなげるためにどのような工夫をしましたか？

事前準備の工夫

SNSなどのデジタルツール活用

- LINEなどを活用して、チャット機能でいつでも相談できる状態をつくる

申し込みフォームやアンケート活用

- 事前アンケートや申し込みフォームに相談内容を記入する欄を設けた

支援体制の構築

他機関・支援者との連携

- 保育士・保健師・社会福祉協議会・行政などと事前に情報共有・連携
- 保育園の先生を通じて状況把握(保護者の希望に応じて代弁・行政との橋渡しも実施)

声かけ・雑談を通じた関係づくり

- 食事中や受付、こどもと遊んでいる間など日常的な場面で自然な声かけ
- スタッフや配布担当者が必ず話しかけるようにした
- 主任クラスの職員が食事中～後に話を聞く体制

相談しやすい場づくり

- 話しやすく明るい雰囲気作りをした
- 個室を用意し安心感のある空間を意識した
- 専門スタッフを配置(保育士・介護士など)
- ニーズに合う曜日・時間を検討し、柔軟な場づくりを工夫した

活動中の工夫

活動を“相談の入口”にする工夫

- 食材の受け取り・宅配時に物資を「選ばせる」ことで親子の会話を誘発
- 「おにぎり食堂」などテーマを絞った活動で気軽に話しやすい雰囲気演出
- 食品配布時にドリンク提供など、滞在時間の確保と緩やかな接点づくり

遊び・絵本・イベントなどを活用

- こどもが遊んでいる間や絵本を選んでいる間に、保護者と会話する
- 食支援活動とお楽しみイベント・ミニコンサートなどを組み合わせて親の滞在時間を確保した
- 園庭開放、未就園児活動、子育てひろばへの誘導

(当食支援活動中に) どのくらいの数の相談に対応しましたか？

活動期間中の相談対応件数

～平均：約16件の対応～

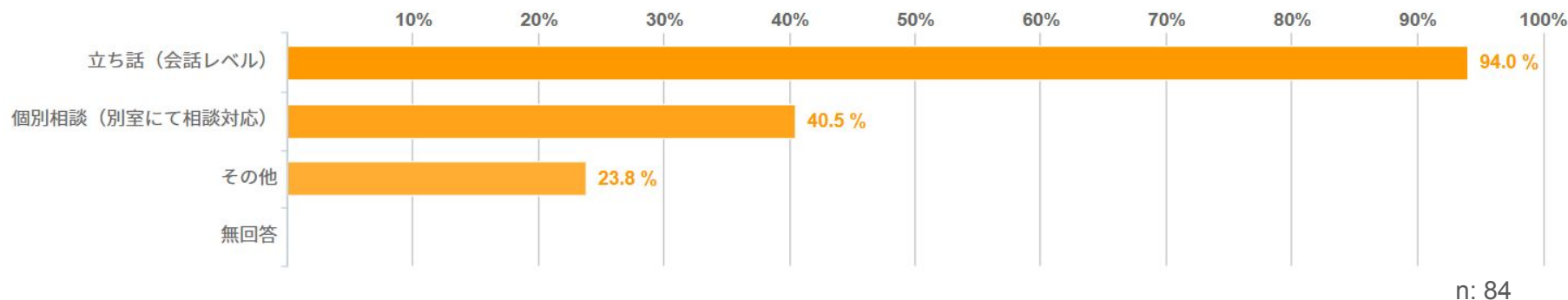


16.7件

n: 84

（当食支援活動中に）どのような形式で相談を行いましたか？

会話レベルの相談対応は 9 割超の事業者が実施 / 4割の事業者は個別相談も行う



その他（自由記述）：

LINE相談、電話相談、Zoomなどオンライン面談

訪問しての相談（夜間訪問など）

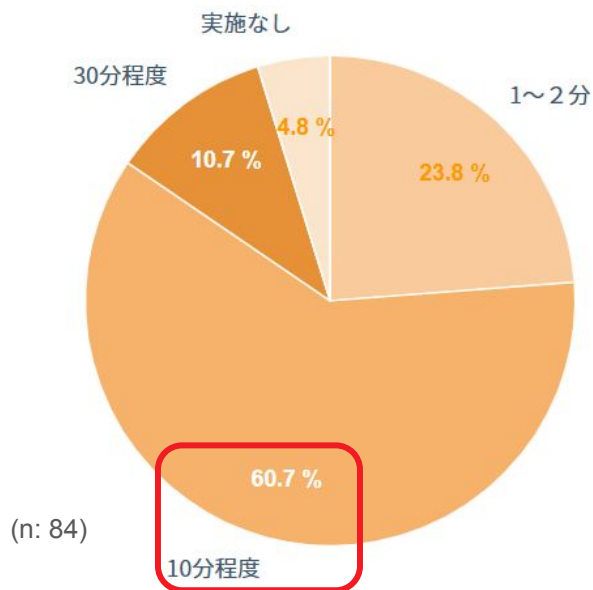
事前にとった利用者アンケートでご家庭の悩みを把握。当日の相談につなげた など



【立ち話】一世帯あたりの相談時間について

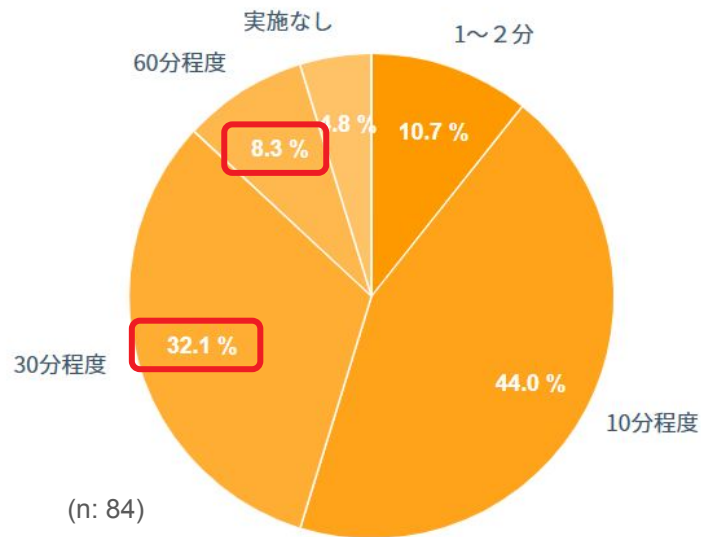
平均相談時間

10分程度が最多/30分のケースもある



最大相談時間

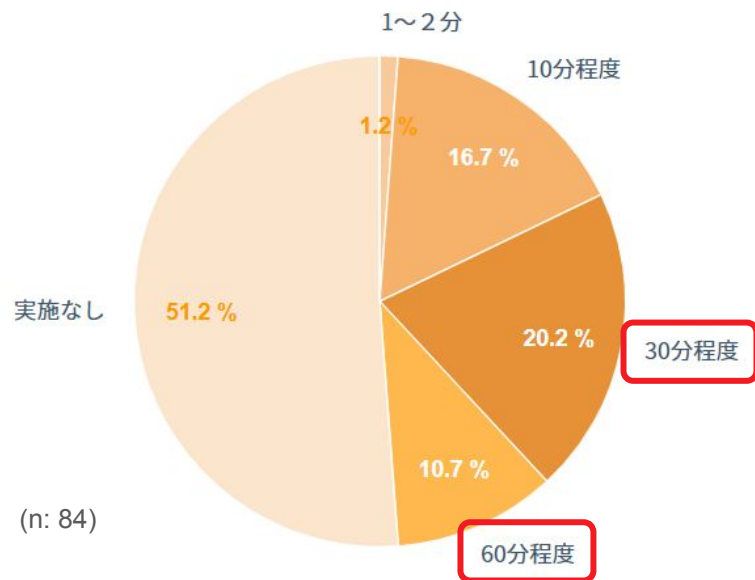
4割以上が30分以上の相談あり



【個別相談】一世帯あたりの相談時間について

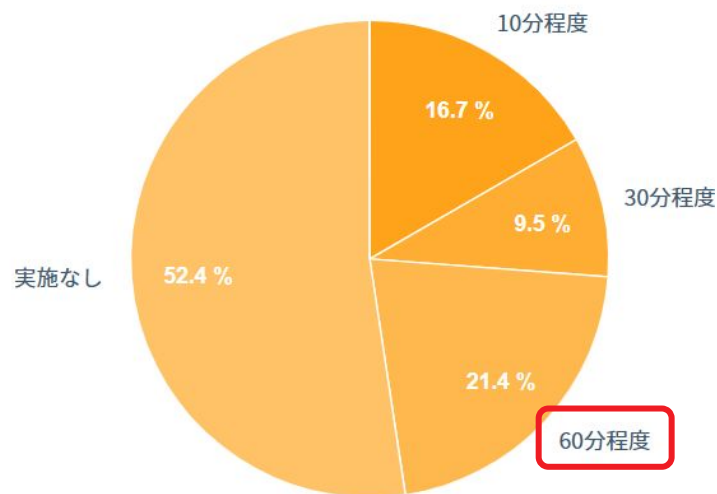
平均相談時間

30分程度が約2割、60分程度が約1割



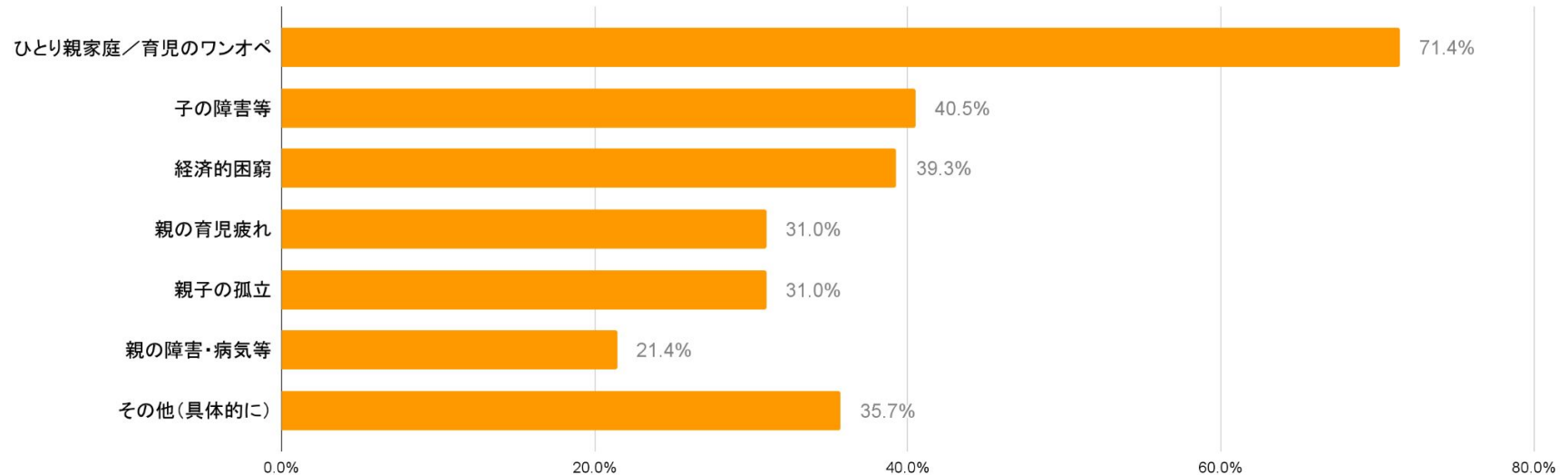
最大相談時間

60分程度も2割あり



主にどのような相談でしたか？

ひとり親・ワンオペの相談が最も多く、親子の障害や孤立に関する相談も



n: 84

主にどのような相談でしたか？（その他：自由記述）

こどもに関する相談（育児・発達・生活）

- 偏食、離乳食、食べムラ、食物アレルギーなどの**食の悩み**
- 寝付きやイヤイヤ期などの**育児行動の悩み**
- こどもの生活や学校での様子、不登校、登校拒否、就学先での生活
- こども同士の人間関係
- こどもの入園に関する悩み

地域・社会との関係に関する悩み

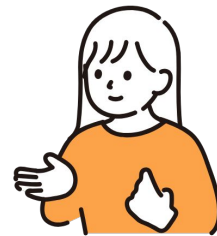
- 地域コミュニティの狭さによる生きづらさ
- 地域や学校、家庭での人間関係の築きづらさ
- 外国にルーツを持つ親子の相談（文化的・言語的な背景も含む）

親の心理的・家庭内の悩み／DV・虐待など

- 夫婦関係の悪化、離婚ができない状況、嫁姑関係
- 妊娠・出産への不安（マタニティ関連）
- 恋愛や交際相手の相談
- 母子関係についての対応（支援団体からの相談も含む）
- DV（家庭内暴力）、虐待

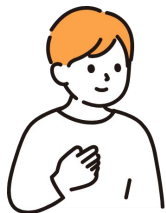
就労・経済的・制度に関する悩み

- 保護者の就労に関する悩み
- 家庭の経済的な悩み、自営業の経営に関する相談
- ひとり親支援制度が使えない（離婚未成立など）



コメント

印象的だった利用者からの相談内容を教えてください



※個人が特定されないように回答コメントの一部文言を変更しています

印象的だった利用者からの相談内容を教えてください（1 / 3）

親の疾病・障害やひとり親（ワンオペ）などを起因として困難を抱えるケース

お母様自身の今後の生活の方針やお金などに目処が立っていない。お母様自身が障害者（うつ）になってしまって将来が不安。こどもの不登校についてどうしたらいいのか？

ご自身に障害がありひとり親でこどもを育てている男性から、女兒が小学校に入学するにあたり経済的に厳しいという話があり、民間の助成金を紹介し申込書類の作成を代わりに行った。

区役所からの援助要請で知り合った妊婦の方で経済的な問題を抱えられていたためコンプレックを水でふやかして食べているという相談があった。食事支援の大切さを実感した。

父親が何度も転職し収入が低く、生活が厳しい。相談窓口を紹介するが、そこまではしたくないとのこと。父親がうつのため休職中とのこと。また母は持病があり通院中。そして、最近こどもは学校に行きたがらない。

ひとり親のお母さんが足が不自由で出かけられず、話し相手が少ないとの事から毎月2回宅食を兼ねて話を聞きに行く。（中略）私たちがどこまで支援できるか話し合い中。

シングルでこどもが4人いて、育てていかなければいけないけれど、パートタイムの仕事中に骨折をしてしまって仕事ができなくなり、収入がなくて困っている

印象的だった利用者からの相談内容を教えてください（2 / 3）

支援介入（支援へつなぎ）～その後の見守りを行ったケース

相談というわけではないですが、**経済的要因から要対協の対象**となっていた親子が、**対象から外れて自立されていく姿があり、印象に残っています**。現在もたまに話はさせていただくのですが、あくまで自己決定を尊重しながら、無理のない生活スタイルができるようにアドバイスをさせていただいています。

障がい疑いの幼児に対する子育ての悩みの立ち話をきっかけに、保護者の生い立ちを通して自身の生きづらさを訴え、最終的に保護者自身の障がい受容、診断、具体的な支援に繋がり、毎月2回程度の面接が開始された。

保育園こども食堂が他の家庭と会話したり、専門家に相談する機会につながったケース

パントリーであったり、経済的支援だけではなく、**育児相談や他のお母さんとの接点がある場所や機会を知る術がない**。市役所へ行くハードルも高いと感じている人も多かった。

こどもが生まれてからゆっくりごはんを食べる時間もなく、**ワンオペでがんばってきた。こんなにゆったりとでき、たくさんの人とおしゃべりできるのはいつぶりだろう**。ほんとに来てよかった。**初めての場所で不安感の中参加したが、ここに来てここが軽くなりました！**上記のように言ってくれたこと。

印象的だった利用者からの相談内容を教えてください（3 / 3）

食支援がきっかけとなって保護者の気持ちを吐露する場に

ひとり親家庭で不登校のお子さんをもつお母さんからの相談でした。引きこもりのためお子さんがこども食堂を利用されることはありませんでしたが、お母さんからは、**近くに昼間の利用ができる施設があると思うだけで安心できると仰って頂きました。**直接お子さんと関わることがなくて、保護者の方からそのように思っていることが、嬉しかったです。

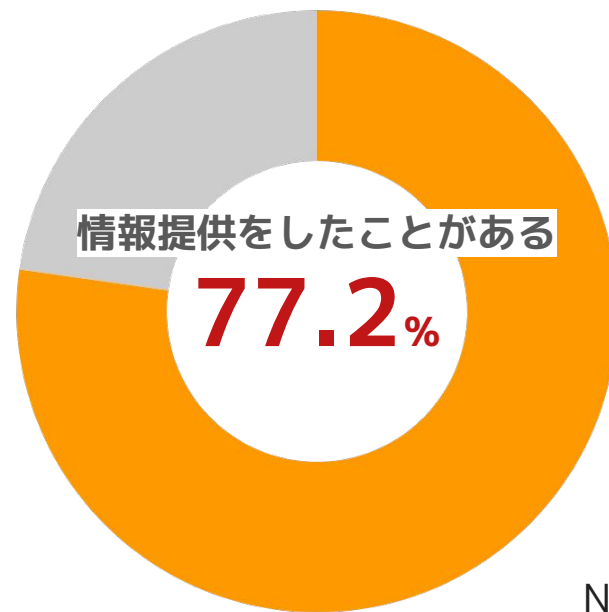
印象的だった相談のひとつは、フードパントリーで野菜を受け取った際に、「最近この子、ごはん全然食べなくて…」と、保護者の方がぼつりとこぼされた言葉でした。そのときは、たまたまこども自身が「にんじんある！」と嬉しそうに選んでいて、スタッフが「にんじん好きなの？」と声をかけると、「家だと全然で…」と保護者が話し始めてくださいました。そこから、「家での食事ってどうしたら楽になるんでしょうか？」という話題になり、「園ではこういう出し方をしていますよ」「無理に食べさせるより、楽しく食卓を囲む時間が大事ですよ」など、さりげなくアドバイスをお伝えしました。最後には、「ちょっと気が楽になりました。こんな風に話せてよかったです」と言っていたことがとても印象に残っています。

ある利用家庭の方（30代・ひとり親家庭）から、「お弁当、ほんとうに助かってます。実は今、仕事を増やしたばかりで、こどもにちゃんとしたごはんを用意できる日が少なくて…」と打ち明けられたことがありました。**こども食堂での何気ないやりとりの中で、「がんばっているけれど、生活の余裕がないことを話せる場がなかった」と言われたのがとても印象に残っています。**その後は、LINEでつながりながらフードパントリーや宅食も利用していただき、「頼っていい場所があると思えた」「こどもが『また行きたい』と言ってくれるのがうれしい」と継続的に参加してくださるようになりました。

食支援活動における「つなぎ支援」

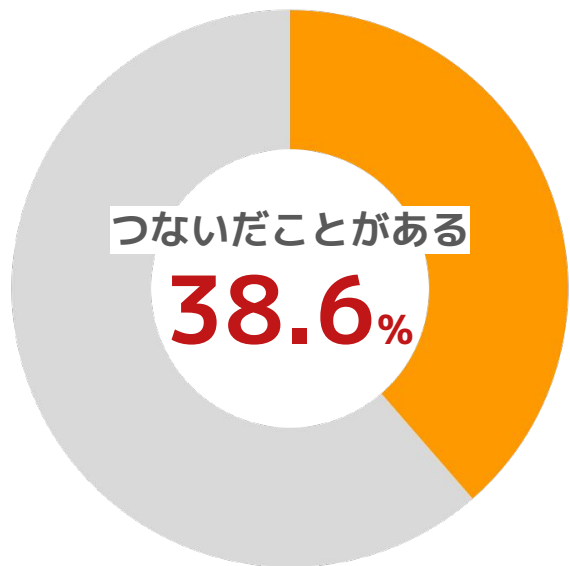
利用者に、子育てや行政の支援など活用できる地域資源について、
情報提供をしたことはありましたか？

約**8割**は情報を提供したこともあり



N: 101

他の専門支援機関や地域団体等へ利用者をつないだことはありましたか？



利用者を専門機関・地域団体とつないだ

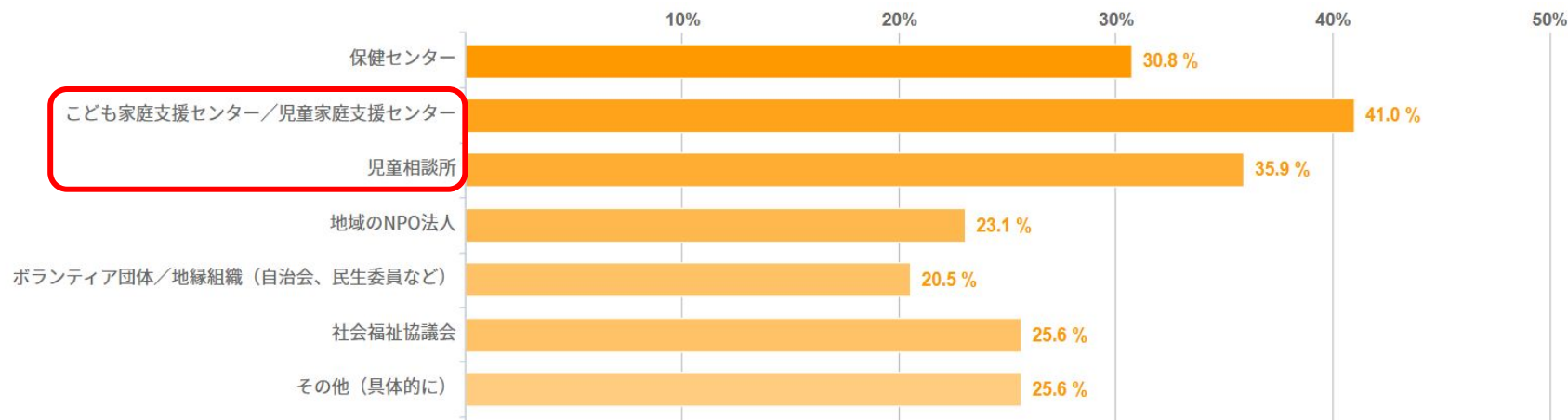
団体は約 **4 割**



N:101

どのような専門支援機関や地域団体につなぎましたか？

つなぎ・連携先はこども家庭支援センターや児童相談所など



n: 39

どのぐらいの数の利用者（世帯）を専門支援機関や地域団体につなぎましたか？

利用者（世帯）を専門支援機関などにつないだ数
～最大では18名の団体も～



平均

4.3 名

n: 39

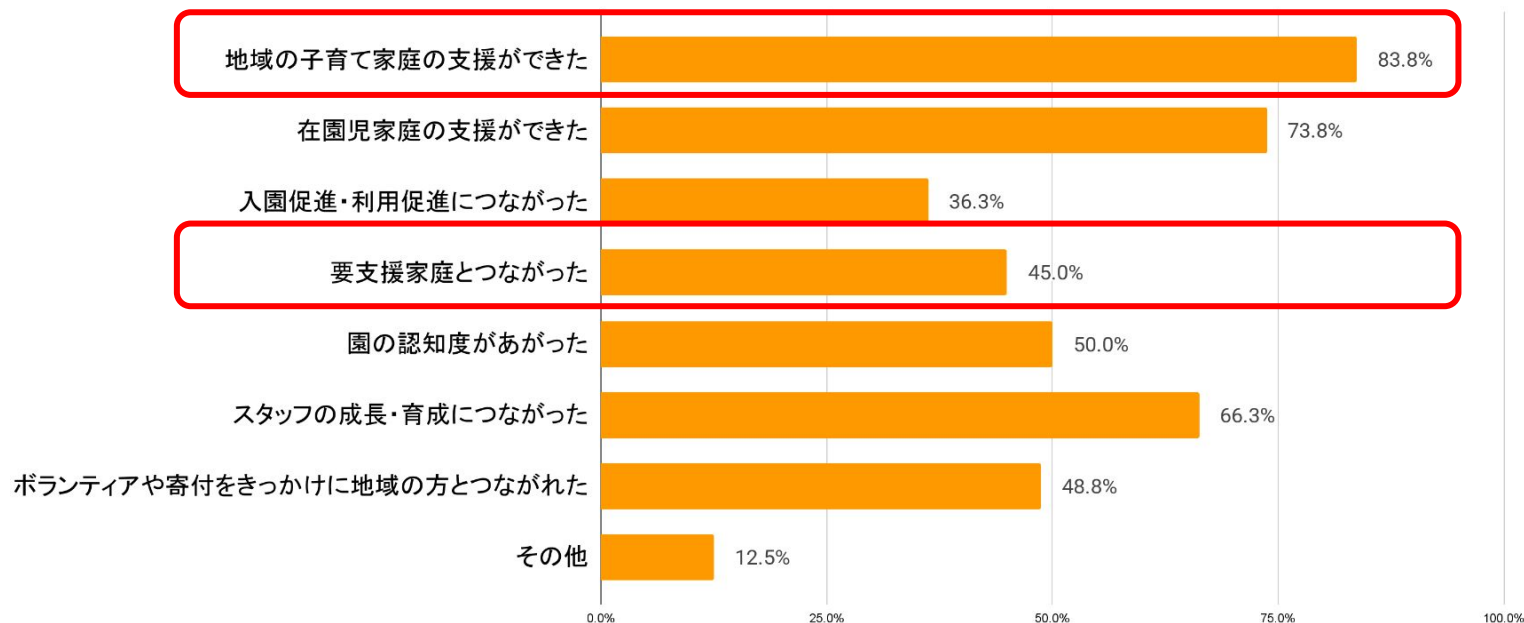
事業者が感じる食支援活動による効果

(保育園こども食堂を実施した場合) 実際に、保育園こども食堂を実施したことで得られた効果について教えてください。

保育園こども食堂

保育園こども食堂を実施した効果

「地域の子育て家庭の支援ができた」最多／**45%**が要支援家庭とつながったと回答

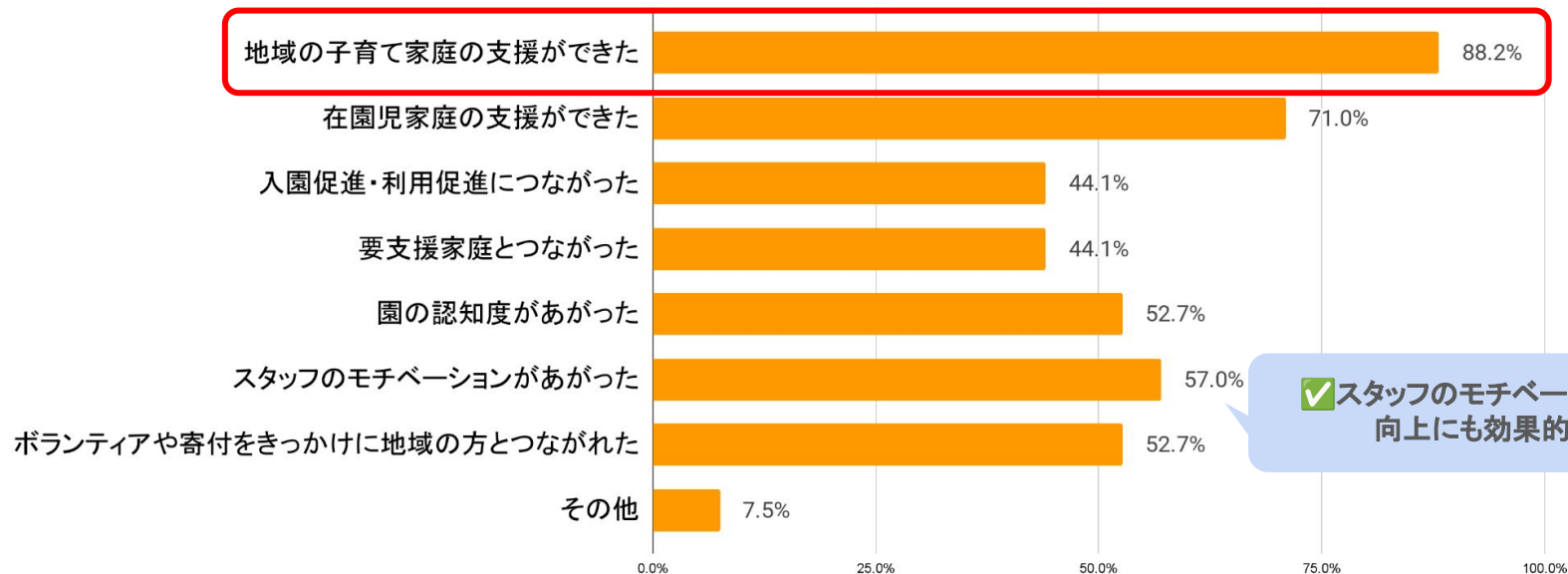


(フードパントリーを実施した場合) フードパントリーを実施したことで得られた効果について教えてください。

フードパントリー
@保育園

フードパントリーを実施した効果

「地域の子育て家庭の支援ができた」が最多で約**90%**



✓ スタッフのモチベーション
向上にも効果的

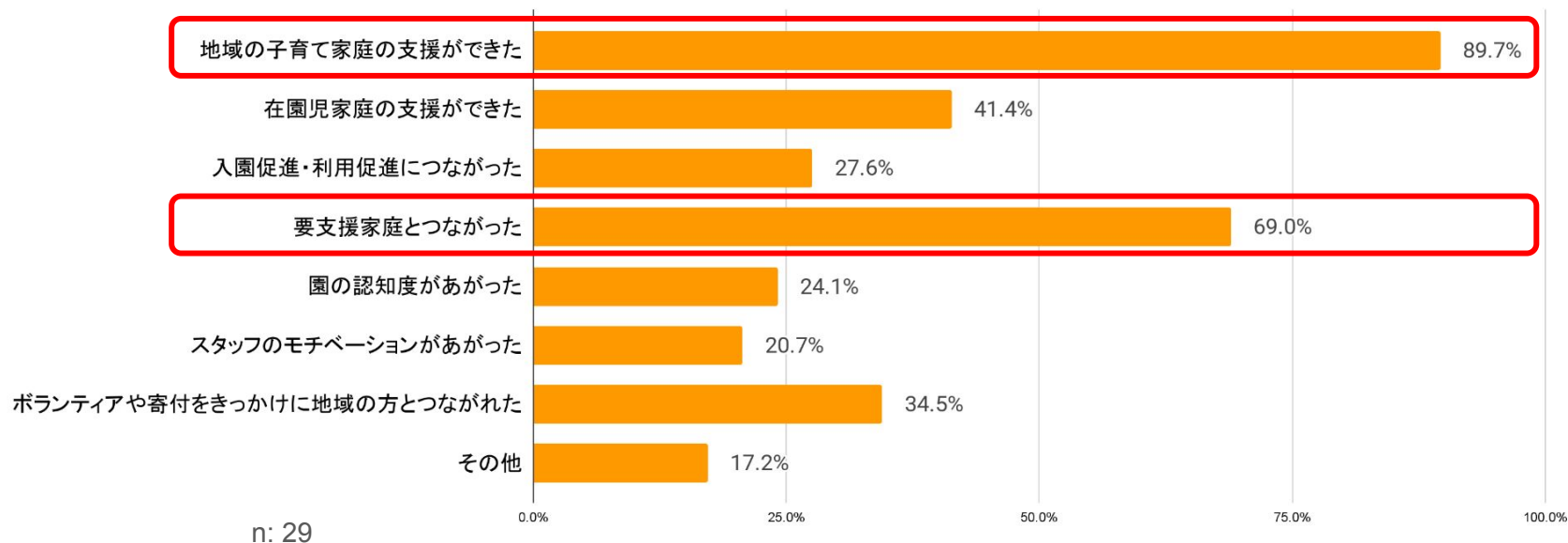
n: 93

(宅食を実施した場合) 宅食を実施したことで得られた効果について教えてください。

保育園宅食

宅食を実施した効果

「地域の子育て家庭の支援ができた」最多／約**70%**が要支援家庭とつながったと回答



実際に、保育園こども食堂・パントリー・宅食を実施したことで得られた効果について教えてください。（その他のコメントから抜粋）

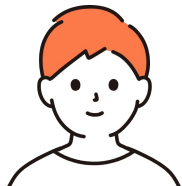
保護者との距離が近づいた、こどもたちの自信につながった。
職員同士のチームワークが深まった。
そして、子育て支援を「やる意味」を再確認する時間になった。

悩みを抱えた家庭を把握することができた。こどもの発達について悩まれている家庭が全体の5%ほどいた。こどもの発達について情報提供や支援ができる活動に繋がっていきたいが、まだ実施できず次年度展開していきたいと考えている。

要支援児童かどうかの情報がないため、分かりませんが、グレーのお子さん
がいる家庭とつながれました。

また、グレーのお子さんがある保護者を、その場にいた放課後等デイサービス担当者につなぎました

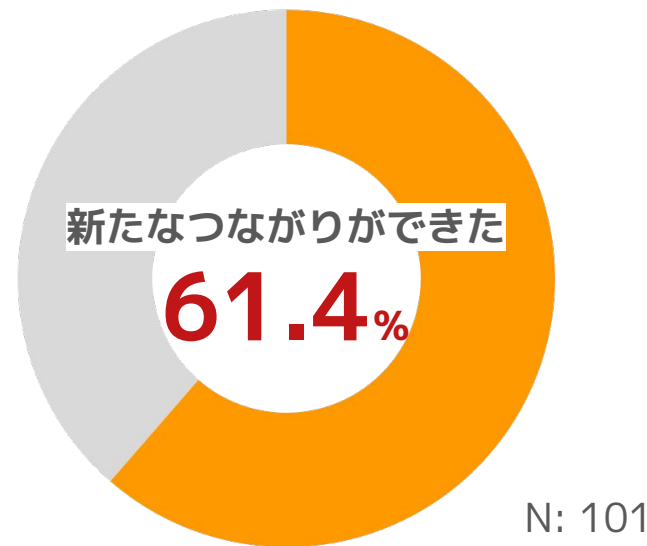
町内の保育所、幼稚園は毎日保護者によるお弁当持参だったが、
新年度からは週1日は給食提供となり、調理員の雇用にも繋がった。



当食支援事業をきっかけに、新たな「要支援家庭」とのつながりができましたか？

食支援がご家庭と新たにつながりを創出するきっかけに寄与する可能性

- **約6割**の団体が要支援家庭との「新たなつながりができた」と回答
- 一方で約4割の団体は新たにご家庭とつながることができていない
⇒ 要支援家庭とつながり、必要な支援へつなぐ機能を全体で底上げしていくことが求められる



※ここでの要支援家庭とは：
経済的な困難や育児の悩み、孤立感などから、行政・専門機関のサポートが必要そうな家庭を指します。
必ずしも行政が把握している必要はありません。

（食支援活動中に）要支援家庭とつながるためにどのような工夫をしましたか？

誰でも来やすく、利用のハードルを下げる工夫

- 「**要支援家庭**」と明記せず、「子育て世帯」「誰でもOK」などの言葉で案内
- チラシや掲示に**明るく前向きな表現**を使い、心理的なハードルを下げた
- **申込手続きの簡略化**（LINE申込、申し込み時取得する個人情報最低限の内容にするなど）
- 保育園など**すでに信頼関係がある場**で実施して参加しやすくした
- **料金設定を低め・無料**にして明記、不安を解消

利用者との関係づくり・声掛けの工夫

- 支援物品配布時やイベント中に利用者へ**必ず声かけを実施**
- **世間話・会話のきっかけを大事にしながら、様子を傾聴する**
- 団体職員が**地域住民として顔を出し、日常的な関係構築**を意識
- 「誰でも来てOK」の空気感作りで安心感を提供する

（食支援活動中に）要支援家庭とつながるためにどのような工夫をしましたか？

広報・周知の工夫

- SNS（Instagram・LINE等）やチラシ、掲示板、商店街等で周知
- 学校・地域イベントでのチラシ配布・掲示
- 区役所・社協・医療機関など関係機関にも協力依頼
- こども食堂と園行事をセットで実施して認知拡大

関係団体との連携による紹介・つなぎ

- 行政（特にひとり親担当）や社協からの紹介
- 保育園・幼稚園・子育て支援センター・学校から家庭情報の共有
- 他団体と連携し、利用者に声かけ・情報提供を依頼

（食支援活動中に）要支援家庭とつながるためにどのような工夫をしましたか？

適切な支援を提供・つなぐための工夫

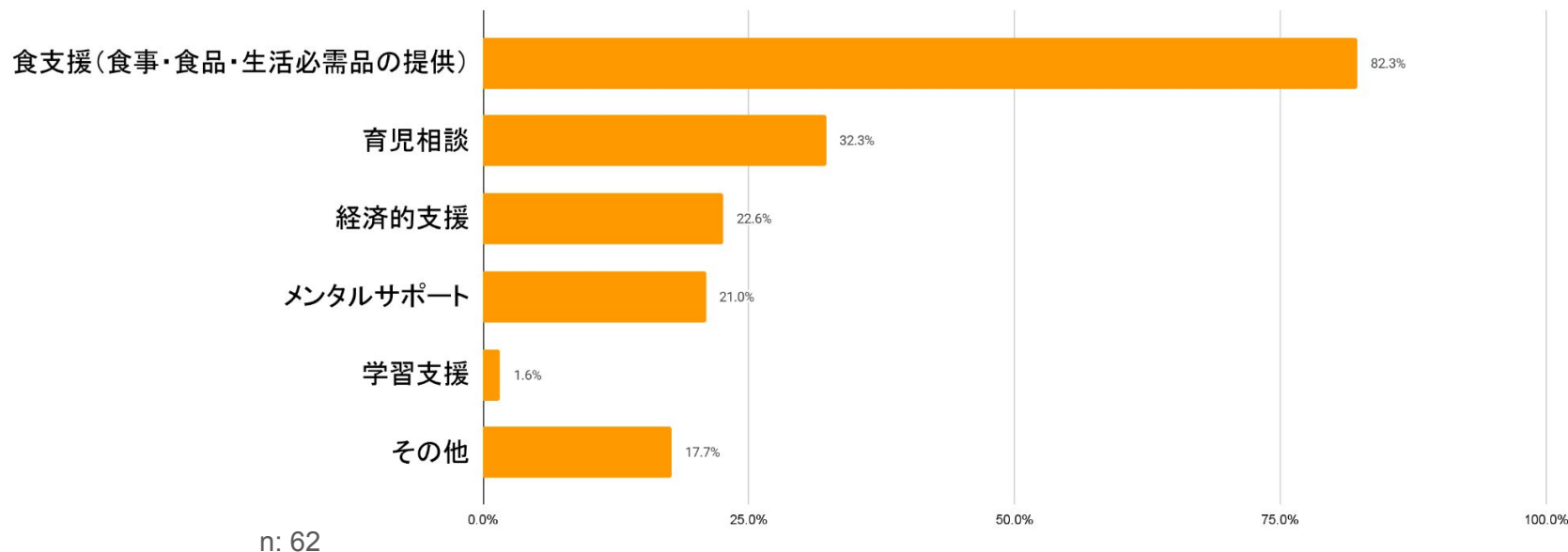
- Googleフォームなどの事前申込フォームで相談内容や家庭状況を記入できるように
- アンケートに子育てや経済状況に関する設問を含めて情報を収集
- LINEを使って継続的につながり、案内や声かけを実施

ご家庭の状況に合わせた柔軟な対応・配慮

- 日程や時間、受け取り場所を柔軟に設定する（例：受取りに来られない家庭には配達を実施する など）
- 初参加の人にはスタッフが付き添う、話しかけるなど丁寧な対応をする
- 締切後の申込でも事情を考慮して受け入れを実施し、信頼関係の構築に努めた

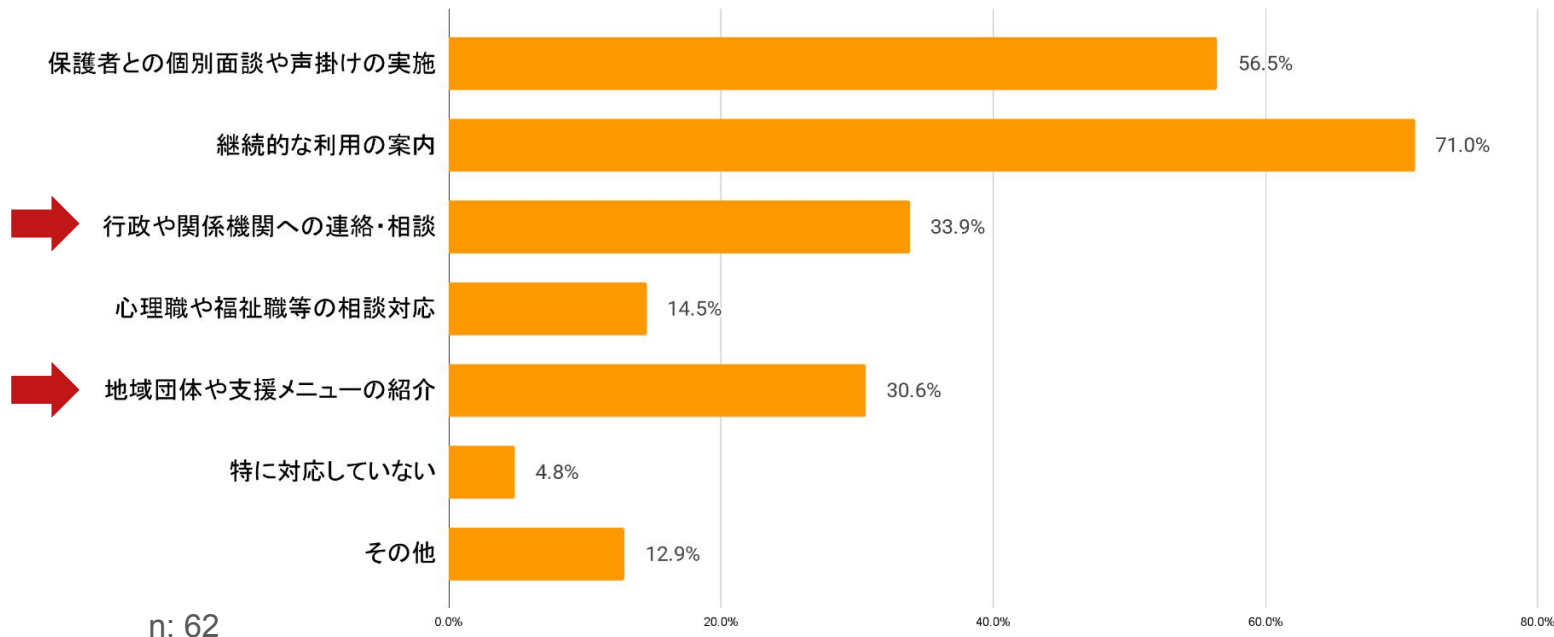
新たに繋がった「要支援家庭」とはどのようなきっかけで繋がりましたか？

要支援家庭と繋がるきっかけ ～食支援（食事・食品・生活必需品の提供）が8割超～



新たに繋がった要支援家庭に関して、どのように対応しましたか？

「保護者との個別面談や声かけの実施」「継続的な利用の案内」が多数
「行政や関係機関への連携」や地域の支援メニューにつなげるケースもあり



新たにつながった要支援家庭に関して、どのように対応しましたか？

その他のコメント（自由記述）

シェルター利用を
案内をした

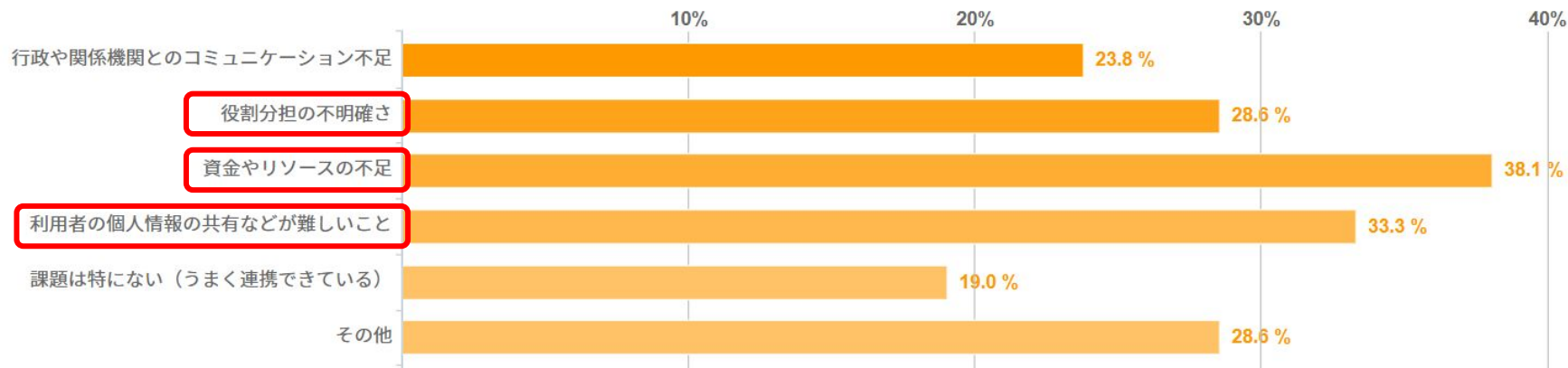
パントリーとは別に食堂
で提供した食事の持ち帰
りなどの対応をした。

要保護児童対策地域協議会へのケースとしてあげ、
個別支援会議を繰り返し支援体制の構築に努めた

行政に連絡したが、行政からの家庭
訪問等の対応してもらえず。そのた
め、急遽、マイ保育園制度の導入を
市にお願いし、**こども誰でも通園制
度への申請を行い、受け入れ対応を
した。**

行政や関係機関とともに要支援家庭をサポートする際に、直面した課題は何ですか？

(行政や関係機関との連携に際して)
資金やリソースの不足に悩む団体が多数
～**役割分担の不明確さ**や**利用者の個人情報の共有**に迷う団体も～



n: 21

行政や関係機関とともに要支援家庭をサポートする際に、直面した課題は何ですか？ (その他のコメントから抜粋)

青年会、保護者会、PTA、公民館活動など地域団体との関わりを促すのみならず、実際に関わってもらい充実した生活につながる体感を得てもらう必要がある。

第三者からみると支援が必要に思われる家庭ほど支援を自分からとりに来ない特徴があるので、そのような家庭にアウトリーチをしていくかが課題。

要保護児童対策協議会で何度となく、虐待通報と一時保護を訴えていたが、結局のところ身体的暴力が発生しなければ児童相談所が措置対応しなかった。その結果、こどもたちも親も傷ついた。予防に力を入れるべき事案だった。

公的機関からの紹介で支援スタートしたご家庭ですが、毎週支援をすることで、本当に支援が必要なのか？公的機関が把握している家庭状況とはまた違うのでは？と疑問を抱くケースがあった時に、相談に行くと「個人情報…」とのことで共有してもらえず。

他団体さんから生活に悩まれている方に当法人のフードパントリーを紹介して頂き、ご家族が参加したのですが、名前などはプライバシーのためお聞きすることが出来ず、参加した方たちにお話を聞きながら、対応した状況がありました。

本当に大変だったと感じたのが、個人情報の共有に対するハードルの高さでした。たとえば、保護者の方から「こんな支援があるなら使いたい」と前向きな言葉をいただいても、こちらから行政機関へスムーズに相談できないことが多く、「この流れのまま支援につなげられたらいいのに…」ともどかしい気持ちになる場面が何度もありました。（中略）

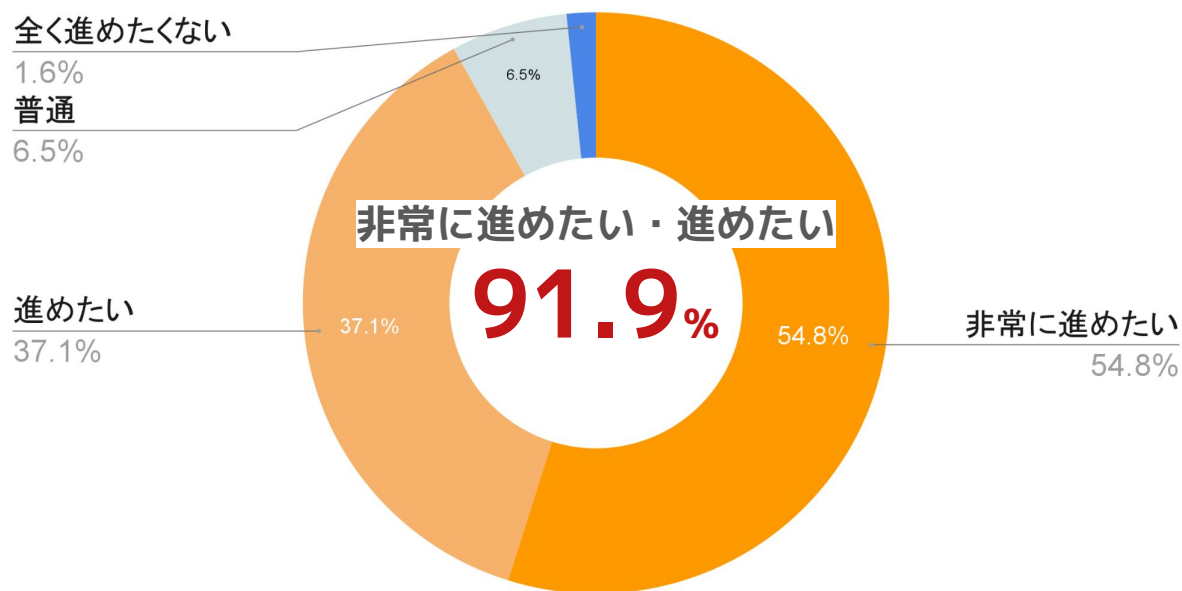
「概要だけでも共有できれば…」と感じても、正式な手続きや確認事項が多く、肝心の支援にたどり着くまでに、かなりのタイムラグが出てしまうのが現実でした。

また、こちらから見て「このご家庭はサポートが必要かも」と思っても、ご本人が『自分は大丈夫です』とおっしゃるケースも多く、周囲に知られることへの抵抗感から、支援を勧めることすら難しい場面もありました。

今後、行政や関連機関、地域団体との連携をどの程度進めたいと考えていますか？

行政連携などの意欲

～約**9割**が進めたいと回答、行政連携強化に対する高い意欲あり～



n: 62

今後、行政や関連機関、地域団体との連携をどの程度進めたいと考えていますか？ (その他のコメントから抜粋)

これまでも行政や社会福祉協議会と連携できるところは、連携してやってきた。**コロナ禍以降相談者の相談内容がどこか一ヶ所だけでは解決できないものが多く、連携の体制や方法をもっと広げていかないといけないと感じる。**

小規模自治体（市町村）、離島での生活が故に**限られた資源（ヒトモノカネ情報）は有機的につながる必要があります、そのコーディネートと接着剤は必要であるため**

（前略）特に、支援が必要な家庭ほど自ら「困っている」と声をあげづらいため、地域の見守りの目や関係機関からの情報提供が、的確な支援につながる大切な手がかりになります。
本当に支援を必要としているご家庭に、宅食やフードパントリーを優先的に案内できている実績があります。また、こども食堂の運営においても、園の保護者や地域のこども会とのつながりが、“支援の輪”を自然に広げる大きな力となっており、こうした地域資源との連携の価値を日々実感しています。 今後はさらに、行政との情報共有体制を強化し、相談支援や福祉分野ともスムーズにつながれる仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

人口が減っていく中で、より子育ての孤立化が進むことを危惧している。そのため、**既存の社会資源である施設や行政が連携力を高めることで、それぞれのもつ機能を最大限に発揮して地域全体でこどもを育てやすい社会を実現できれば良いと考えるため。**

私どもの団体だけでできることは限られていて、**いろんな方々とつながりチームになればさらにより多くのご家庭のご事情に合わせた支援が可能だと考えます。** 具体的な支援につながる一歩前の場所として、保育園こども食堂はとても大きな役割を担うことができると実感しました。

現場でできることには限りがあると感じていて、**もっと早く・もっと広く支援を届けるためには、行政や地域団体との連携が欠かせない**と思っています。ちょっとした困りごとでも、誰かに相談できたり、「大丈夫？」と声をかけてもらえる関係があるだけで、支援につながるきっかけになります。それぞれが得意なことを持ち寄って、チームで子育てを支える仕組みをもっと広げていきたいと考えています。

コメント

食支援事業を通じて、これまでに特に効果があったと感じる「要支援家庭」とのつながりの方法や、印象的だった事例があれば教えてください。

※個人が特定されないように回答コメントの一部文言を変更しています

食支援事業を通じて、これまでに特に効果があったと感じる「要支援家庭」とのつながりの方法や、印象的だった事例があれば教えてください。

行政からの連絡を一切拒否している家庭が**食の支援**ならうけたい！との話を聞き訪問。保護者と会うことができその後、こどもとも会うことができた。食支援をすることができた

こども食堂やフードパントリー事業などの **食支援活動**をきっかけとして、**参加申し込みの段階でヒヤリングを行うことで、どの世帯がどのような支援を必要としているかを把握できると感じた**。最後の回を実施した時に、初めて悩みについての項目を追加したのですが、全体の5%程度の世帯がこどもの発達について行政などの専門機関に相談したいレベルで悩みを抱えている方がいることに、こどもの発達に関する支援を展開していくことの必要性を強く感じました。

子育てが孤育てになっていることが多く、特に外国にルーツを持った子育て世帯は孤立しがちであるため、声かけを心がける。すると、笑顔が多くなり、安心して色々話せるようになった。

子への虐待や夫からのDVがあるご家庭。母親からSOSが入り、**食支援を通して細く長く支援を継続してきた**。4人のこどもは様々な障害を抱えており、母親もADD傾向のある要支援世帯だった。要保護児童対策地域協議会を通して、定期的に支援機関と連携して見守りと支援を継続。親の離婚後、子の就職、進学や転居など様々な場面で支援と見守りを行った。

要保護児童対策地域協議会、個別ケア会議を積み重ねた、身体的虐待がきっかけとなって一時保護送致となっていたが、児童養護施設からの一時保護解除後の家庭復帰の際の宅食、**パントリーを充実させたことが本世帯にとっては介入しやすかった**（後略）。

申込アンケートで、ひとり親世帯・障がいのあるご家庭かを確認し、**申込優先枠**を設けた。詳細を記載してもらって、家庭内の状況を把握できるようにした。**申込後の連絡はLINEを使用したので、やり取りの中で悩みを書いてくださる方もあった**。

お子さん5人を抱えるお母さんが、初めは、こどもに食べさせるだけだったのが、**母が食べられていない様子だったので(こども食堂でだしている食事を)持ち帰りをさせたところ、次からは一緒に食べる様になったり、会話をするようになったりと少しずつ安心してもらっている雰囲気を感じられたこと**。常連として通うようになってくれたこと。

夫婦間の不和が生じ心理的、身体的、経済的暴力があり、女性相談員に繋ぎシェルターを利用。こども3人を抱えてその間に離婚に向けて協議を重ね、離婚が成立したのちに**住居問題と就労の場を支援**する。ひとり親世帯となって食支援を開始、家庭的にも大変助かった。

コメント

「要支援家庭」を支援するために、自団体としての改善点を教えてください。

「要支援家庭」を支援するために、自団体としての改善点を教えてください。

人手不足・専門的な人材育成など

チラシやスタッフの稼働がどうしても足りなくアウトリーチにかけるパワー不足

長年ソーシャルワークを担ってきたため動きはできるが、次世代人材がいなかったため限られた人員での支援になってしまう。採用と育成が大きな課題となっている。

人手不足はどの地域、どの業種業態も同じであるが、特に秘匿性の高い本事業に関しては人材の選定と育成が急務である。

小規模で脆弱な団体であるが故に資金面が一番の課題である。2番目に人材確保と担い手育成が課題となっている。

日々の活動の中で、ふとした会話から深刻な相談を受けることがある。だがその相談をしっかりと受け止め、伴走支援するスタッフの数が少ない。専門的な知識をもった相談員を育成したい。

小規模自治体が故に、担当する課や担当者の公務分掌が兼務多様で忙殺する日々であること。（中略）人材育成の際のスーパービジョンができるスーパーバザーが乏しいこと。

「要支援家庭」を支援するために、自団体としての改善点を教えてください。

関係機関との連携体制の構築について

日々のやりとりの中で「少し気になるな…」という場面があっても、どこまで声をかけていいのか、どうつなげていけばいいのか、現場では手探りになることが多いです。スタッフの中でも、「声をかけすぎてプレッシャーにならないかな」と心配する声もありました。また、そうした小さな気づきをチームで共有したり、あとにつなげる体制がまだ弱いと感じています。「あのときの話、もっと早く共有できていたらよかったよね」という反省もありました。案内の出し方や雰囲気づくりもまだまだ改善の余地があるなと思っています。支援といっても、“特別な人向け”ではなく、誰でも気軽に来られる雰囲気をもっと意識してつくっていきたいです。そしてやっぱり、行政や地域の団体との連携をもっと深めたいというのが大きな課題です。こちらが「つなぎたい」と思っても、相手の顔が見えなかったり、動き方が分からなかったりする場面もあるので、普段からの関係づくりを進めていく必要があると感じています。

要支援家庭を把握した後の、企画や活動の展開が令和6年度はできなかった。行政や関係機関との連携を図り、悩みに沿った子育て支援活動の展開を行なっていきたい。

自団体には専門的な知識をもったスタッフがいないため、相談についてどこに繋がればいいか、わからないときもある。また、繋いだとしても関係団体でつながるところがなく、結局振り出しに戻るケースもある。地域で相談ネットワークのような連携が必要と考えている。

「要支援家庭」を支援するために、自団体としての改善点を教えてください。

支援を要する人へリーチするための事業設計について

・支援対象の「見える化」と支援の個別対応の強化：
要支援家庭の中には、表面的には困っていると見えにくい世帯や、支援を遠慮してしまう保護者も少なくありません。現在は保育士や行政・NPOからの情報をもとに連絡・案内を行っていますが、今後はLINEや参加履歴をもとに、継続的に支援が必要な家庭を明確に把握し、タイミングを見て個別に案内や相談の声かけができる体制を強化したいと考えています。

・支援メニューの柔軟化と選択肢の提示：すべての家庭がこども食堂に来られるわけではなく、事情により宅食やパントリーのほうが利用しやすいケースも多々あります。そのため、「その家庭にとって最も利用しやすい方法を選ぶ」よう、支援の選択肢を整理し、対面・非対面どちらでもつながれる体制を維持・改善していく必要があります。

園庭開放などのイベントを増やす、イベントの開催時期、内容を検討する。保育士からの育児相談に加えて、栄養士からの食事相談などの専門的立場からの相談機会を増やす。

我々のエリアは、全体的に経済的に比較的安定した家庭が多く、いわゆる“支援が必要な家庭”が地域の中で見えづらいという特性があります。実際、こども食堂への参加者の中にも、明らかに支援を必要としていない層の方が一定数おられます。その一方で、表面的には困っていなくても、内面的な孤立や育児の不安、ひとり親としての葛藤など、“見えにくい困りごと”を抱えている家庭も存在しており、その把握とアプローチが難しいのが現状です。

「要支援家庭」を支援するために、自団体としての改善点を教えてください。

広報や周知について

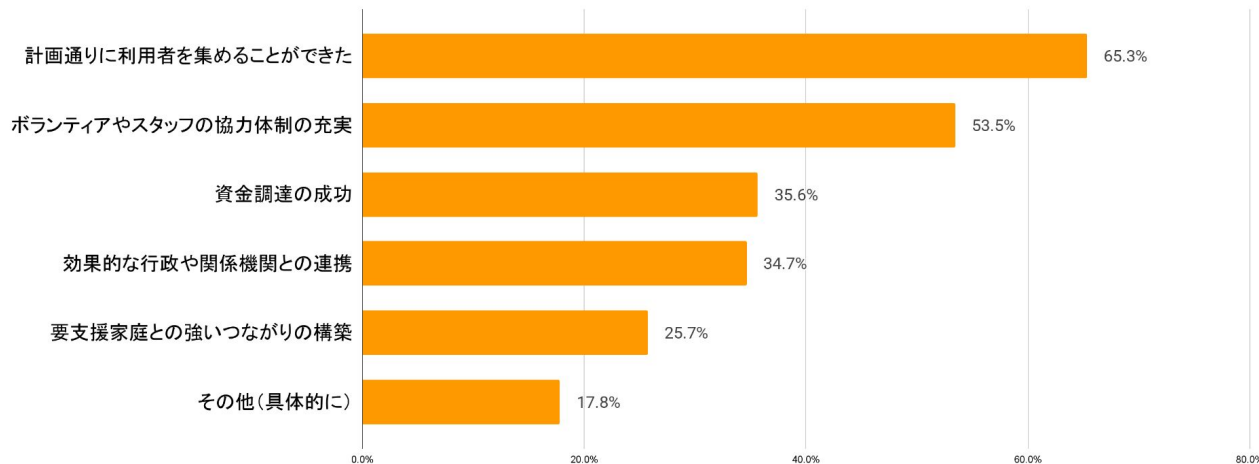
経済困窮のご家族には近年ポスターなどで、支援の利用方法が伝わりやすくなってきたと感じていますが、疾患児さんや医療的ケアのある子のご家族には、あまり利用する支援方法や窓口が分かりにくいままであると感じています。大きな相談窓口だけでなく、小さな支援団体も含めて一覧やマップなどで呼びかけていただきたいと思います。私たちも広報には力を入れておりますが、チラシなどを掲示して下さる場所も少なく、掲示していただいても埋もれてしまっているのが悩みです。

要支援家庭にも関わらず、自ら支援を拒否する家庭がある。それに対して、粘り強く広報をかけていくとともに、困っているこども自身へのアプローチを行っていく。

「支援を必要とする方にどう情報を届けるか」
を考えていかなければと思う

今年度の食支援事業の運営について、 自団体・自園として上手くできた点を教えてください。

利用者集めに手応えを感じる団体が多数



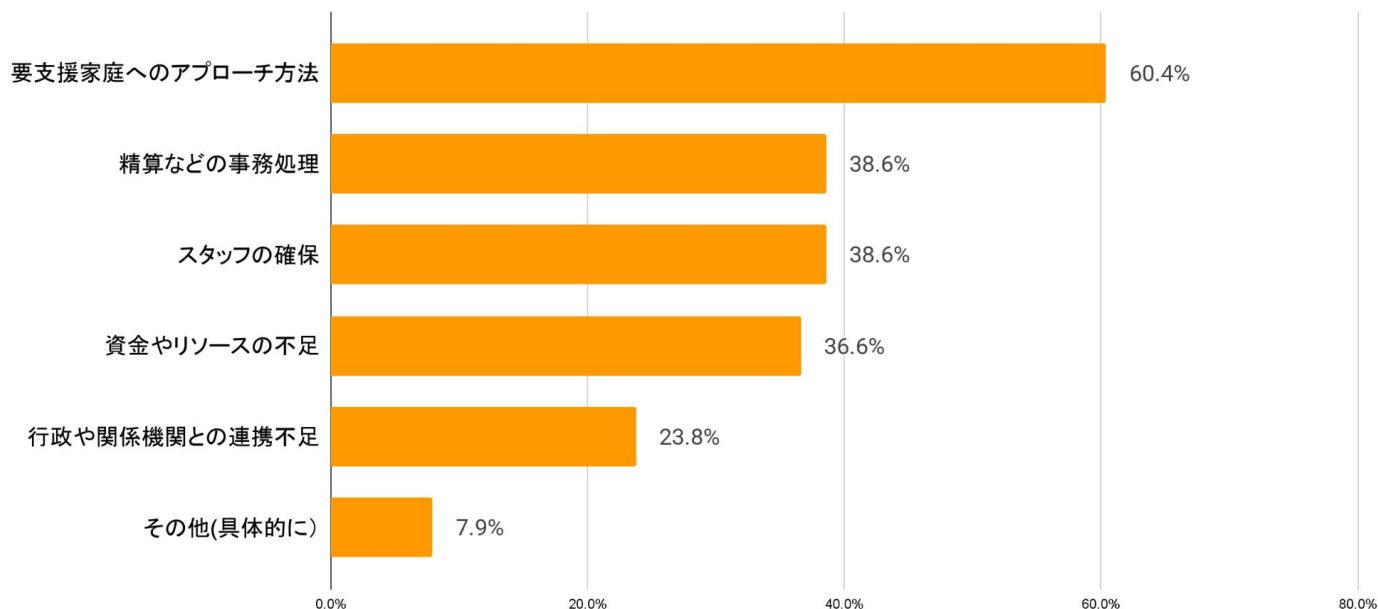
N:101

その他の回答サマリー（自由記述）

- 結果的だが、児童養護施設への一時保護によって児童の命を守ることができた
- 就労支援を行いことによって保護者の経済的な助けになれた。
- 要支援世帯をシェルターに繋ぎその後の支援もうまく行ったこと
- 前年度の課題にしっかり対応できたこと(計画・告知・食品調達・事務処理)

今年度の食支援事業の運営について、
自団体・自園として改善が必要だと感じた点を教えてください。

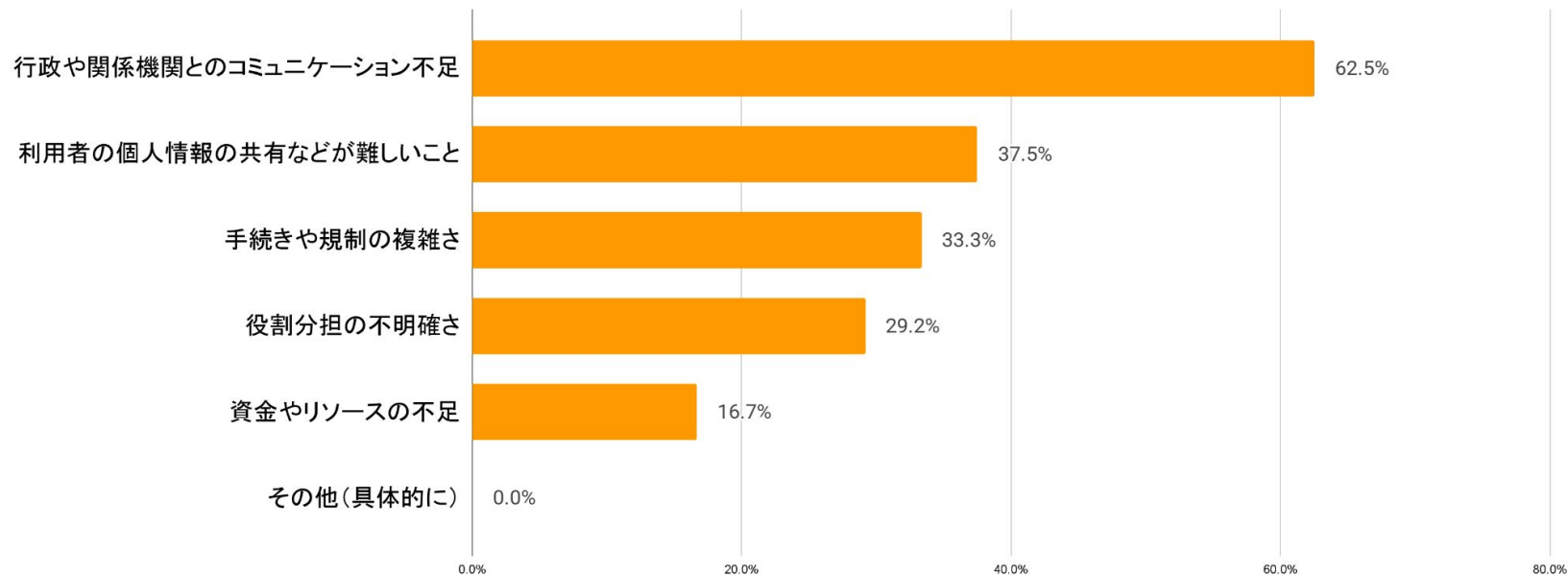
要支援家庭へのアプローチに課題を感じる団体が多数
事務作業やリソース不足にも課題



N: 101

行政や関係機関との連携において、自団体・自園で共通して直面した課題は何ですか？

「コミュニケーション不足」に課題を感じる団体が多数
次いで、「個人情報の共有」について課題を感じる団体も



n: 24

コメント

今後の食支援事業の運営において、最も重要だと考える課題は何ですか？

今後の食支援事業の運営において、最も重要だと考える課題は何ですか？

資金確保の難しさ

人件費が想定よりもかかったので、赤字では続けることが出来ないため、綿密な予算を組めたら良かった

助成金や補助金の活用だけでなく、企業やスポンサーシップを得る。
利用しやすい支援の仕組み作り。

団体が、安定的に運営できること（スタッフの確保と研修／また報酬） スタッフの生活基盤が脆弱では、福祉サポートは難しいと感じています。食支援がアウトリーチに手っ取り早いとわかっていつつ、資金難からスタッフの時間を確保できずに、残念な思いをしています。

事務作業の負担

ボランティア人材確保 事務の簡素化
ボランティア活動であるのに、会社のような事務処理があり、これでは仕事の傍らにはできない。ボランティアに、ここまで求め、事務時間をどう捻出していけばよいのか？

保育園が行うので、通常の保育事業との兼ね合い。 金銭的なこと、時間的なこと、作業的なことで負担が大きくなると、通常の業務への負担も大きくなる点が課題。

今後の食支援事業の運営において、最も重要だと考える課題は何ですか？

本当に支援を必要としている家庭へ支援を届けるための工夫

事業の内容が、経済支援でなく地域のつながりを中心としている事を十分伝え、誰もが快く参加できる場でありたい。

本当に支援を必要としているご家庭（貧困層やシングル家庭）につながるケースが、利用者数に対してすごく少ないのがまだまだ課題と感じています。

こども食堂の利用者の中にも、明らかに支援を必要としない層の参加が一定数ある一方で、本当に困っている家庭ほど遠慮や不安から参加を控えているケースもあります。また、支援が一時的なものであると、利用者にとっても「またすぐ終わってしまうのでは」という不安につながり、相談や継続的な利用につながりにくい側面もあります。“つながっていれば、いざという時に声をかけられる”という関係性づくりが、食支援の大きな役割であり、それを継続していくための体制や資源の確保も含めて、今後の重要課題ととらえています。

今後の食支援事業の運営において、最も重要だと考える課題は何ですか？

要支援家庭との継続的なつながりをつくるための工夫

今後の食支援事業において最も重要なのは、継続できる運営体制の構築と、支援を必要とする家庭との「つながりを切らさない仕組み」だと考えています。食支援は、単に一度きりの食事や食品を提供するものではなく、「何かあったら、またあの場所に行けばいい」「ここに来れば誰かに会える」という安心感を生む場として機能しています。（中略）

特に子育て中のひとり親家庭や孤立しがちな家庭にとっては、継続的な支援の存在そのものが“見守られている”という実感につながり、生活の不安や孤独感を和らげる支えとなっています。その一方で、活動を継続するには、人的・資金的な安定が不可欠です。現状ではスタッフの多くが子育て世代であり、年末年始や繁忙期などは開催の維持が難しくなることもあるため、持続可能な体制の整備が急務です。今後も、「つながりを途切れさせない」支援の継続を目指して、地域の保育園・行政・NPOと連携しながら、柔軟かつ継続的な運営を模索していきたいと考えています。

コメント

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

資金と人材の“安定供給ライン”づくり

その場しのぎの助成金申請だけではなく、**継続的な資金調達のための方法や手段を構築**すること

常時こうした事業を継続できる資金を地域から調達し、常時体制を組むことができることが理想的。そういった体制へ徐々に移行していくため、**補助金も活用し、取組の継続や実績の積み重ねをしつつ、地域内でのネットワークを広げていくことが必要**

行政の補助金等の仕組みが、安定的なものを構築していただくことだと思います。

（中略）**即戦力となる人材確保が当初地域では非常に難しい。人材バンクのような支援者登録システムがあると良い。**

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

行政・中間支援との協働による仕組みの継続

中間支援施設を通してスピード感を持って対応できることが何よりも最大の仕組みだった。継続して本事業を利用できることが望ましいが、公金の関係上事業名を変えてでも継続して助成してもらうことが小規模市町村にとっては最大の支援につながる。

1年を通しフードパントリーを継続的に運営するためには、安定した資金源と十分なリソースが必要です。**寄付や助成金の獲得、企業やコミュニティとの協力関係の構築が重要だと考えています。**

本事業のような助成金事業の継続。公的補助金の事務処理は特に事務量の多さが課題であるため簡略化こそ現場対応の充実につながる。**最終的に支援の充実、成果は人によって左右されるため人材確保、育成が重要。**

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

「届ける」「続ける」「広げる」を同時に設計

要支援家庭の「孤立」を防ぐための食支援は、単なる食料提供にとどまらず、つながりのきっかけであり、生活課題の入口にもなる大切な事業だと思います。その可能性を広げるためには、「どう届けるか」だけでなく「どう続けるか」「どう広げるか」を見据える視点が今後求められるような気がします。

食支援を通して確実な家庭介入ができることは大きい。家庭訪問や家庭環境の把握、保護者、こども達との面談等、大好きなメニュー、食材、必要な文房具等リアルニーズを掴むことができるため、本事業はとても大切だと感じている。

誰のためのものかをはっきりと打ち出し、要支援家庭や孤食などの問題解決のために運営していく。宣伝等のやり方をより、要支援家庭に届くように行政との連携を行っていく。

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

事務・広報のDX（デジタル化）と標準化

LINEなどで継続的につながり、「しばらく参加していない家庭」にこちらから声かけができる関係を維持。宅食やフードパントリーの利用を通じて、対面でなくてもつながりを切らない仕組みを併用。「〇〇さん、今日いかがですか？」など、個別対応によって“自分のためにある支援”だと感じてもらえる工夫も行っています。

申込フォームにて、生活の困窮状態を5段階で入力してもらうようにしています。また、障がいのあるお子さまがいるかどうかや母子家庭か、父子家庭かなども知らせてもらう欄も用意しています。エントリー情報を見て、家庭状況を総合的に判断し当選とするかを決めています。

最も重要だと考える課題に対する具体的な対応策や改善点があれば教えてください

その他

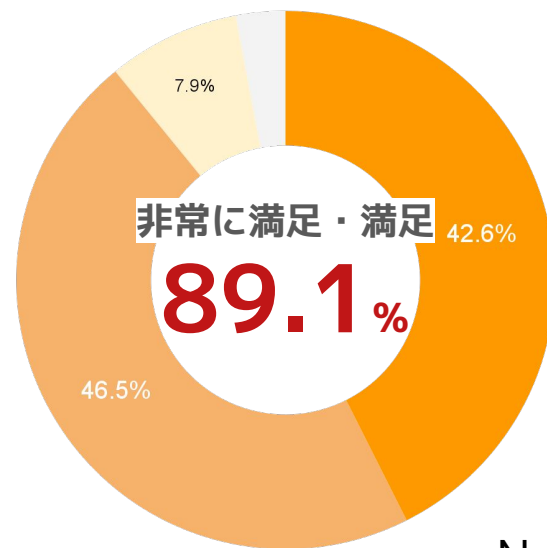
もし、今後も継続できるのであれば、個別の困りごとや、
どんな専門機関を紹介するか等、**知識がある職員を2名配置**できるようにしたい。

保育園の保護者が利用しやすい時間帯を聞いたりしてリサーチすること。その時間にスタッフが合わせられるかどうかが必要なので、利用意義等しっかり伝えていくこと。

地域の子育て広場などと一緒にシングル家庭などに絞った内容の企画を立てたり専門機関とのつながりを強化していきたい。

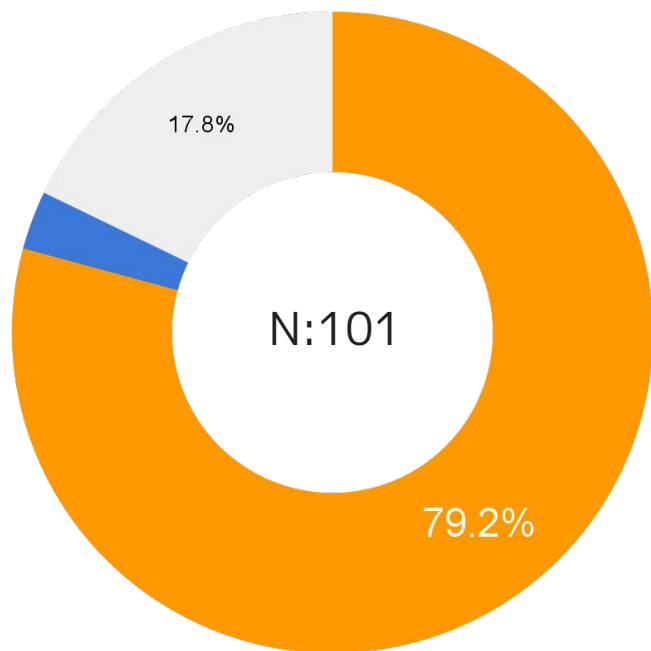
今年度の食支援事業全体の満足度を教えてください。

活動団体の満足度は約 **9** 割



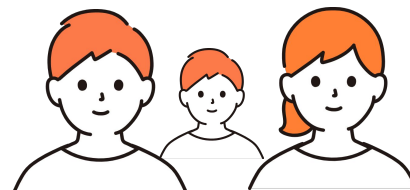
N: 101

来年度も食支援事業を実施したいと思いますか？



● 実施する ● 実施しない ● わからない

来年の実施意欲について
8 割近くが継続意欲あり



こどもたちのために、日本を変える

Florence